

平成26年度 調査・研究

「高等学校における校内研修の活性化」

— 同僚性をはぐくみ組織の活性化を図る、演習を中心とした研修プログラムの構築 —

目 次

1	テーマ設定の理由	P 1
2	校内研修活性化への取組案	P 2
3	校内研修プログラム案	
	クレーム対応研修	P 5～6
	コーチング研修	P 7～10
	キャリア・カウンセリング研修	P 11～14
	「社会的・職業的自立に必要な能力を育成する インターンシップの在り方」研修	P 15～16
	授業改善研修	P 17
	授業改善研修(言語活動)	P 18
	授業評価	P 19～21
	道徳教育研修	P 22～49
	危機管理研修	P 50～51
	「いじめへの対応といじめ防止」研修	P 52
	カリキュラム・マネジメント研修	P 53
	組織マネジメント研修	P 54

高等学校における校内研修の活性化

— 同僚性をはぐくみ組織の活性化を図る、演習を中心とした研修プログラムの構築 —

1 テーマ設定の理由

(1) 校内研修の必要性について

中教審答申(2006年7月)「教員に対する信頼の確立に向けて」によれば、「各学校においては、魅力ある職場づくりを進めるため、教員同士が学び合い、高め合っていくという同僚性や学校文化を形成することが必要である。このため、個々の教員の能力向上だけでなく、学校におけるチームワークを重視し、全体的なレベルアップを図るという観点から、校内研修の充実に努める必要がある。また、有機的、機動的な学校運営が行われるよう、校務分掌などの校内組織の整備や、個々の教員の知識・経験を他の教員も共有できるような校内体制づくりを進めて行く必要がある」とある。校内研修の機能として、①教師一人一人の職能成長、②教師集団としての成長と協働態勢の促進、③学校の経営、組織革新が挙げられているが、中でも校内研修を通じて学校における組織開発をいかに進めるか、大量退職時代を迎えて、若い教員を現場でどう育てるかが喫緊の課題となっている現在、重要である。教職員一人一人に力があれば、組織としての力が向上するわけではなく、自分の意思が目標に反映されていることが実感でき、問題に向き合おうという共通認識ができて初めて協働に向けての仕組みづくりができると思う。

(2) 高等学校における校内研修の実態

高等学校における校内研修は、年平均3回程度の実施で、実質研修時間は一回あたり60～90分程度であり、小・中学校に比較すると少ない。内容も講義形式がほとんどであり、実習はAEDなど保健関係のものである。その理由として、部活動や補習のため共通して研修時間を確保することが難しいことや、教科の専門性が高く、研修は自分でするものといった高校独自の風土が考えられる。方法よりも内容重視の考え方が強いということも言える。

(3) 高等学校における校内研修の課題

全国高校教頭・副校長会研究集録によれば、「校内研修を活性化させる上で感じる課題」の主なものとして、①テーマや内容によって職員のモチベーションに温度差がある、②行事や会議が多く、研修の予定が入らない、③研修の効果や成果が測りにくい、④職員が受動的・消極的である、⑤外部講師への謝金等の予算がない、などが挙げられている。

(4) 高等学校における校内研修での研修支援隊の利用状況

ここ数年で、高校から教育センターの研修支援隊への申込みが増えてきている。学校によっては夏季休業中に1日かけて研修するところもあり、教職員全員の授業研究を3日間に渡って支援したところもある。過去3年間の実施内容は、クレーム対応・危機管理、授業改善(授業研究、言語活動、発問等)、評価、カリキュラムマネジメント、キャリア教育などである。授業改善に関するものが最も多く、平成25年度は、言語活動の充実にに関するものが4件であった。ただ、高校からセンターへの研修支援の要請が増えてきたとはいっても、多くの高校では、年に3回、定期試験期間の午後に60～90分程度の研修であり、全体での研修時間が大きく増えているわけではない。その中でも、先生方が共通研修テーマに基づき演習・協議を行うものはさらに少ない。学校の組織力を高めるためには、「個人の知」を「組織の知」に変えていくことが求められる。その内容と質を規定するのがコミュニケーションであり、演習・協議を中心とした校内研修プログラムが有効であると思う。

以上のことから、有用感が高く、すぐに効果が実感でき、主体的に取り組める、また、同僚性をはぐくみ、学校組織の活性化を図るために、先生方の忌憚ない意見交換と情報共有、共通目標に向けての協働の契機となるような校内研修プログラムを作成し、学校の課題や実情に応じて選択実施してもらえれば、校内研修の活性化につながるのではと考えた。教科専門の壁が高い高校において、校内研修への参加意欲を高めるためには、各教師の意向と個々の教師の課題を把握し、教職員全員が取り組める研修を設定できるかが鍵となる。最終的には、センターの指導主事が出向がなくても、各校の職員が主体となることができるようなガイドブックの作成を目標としたい。

2 校内研修活性化への取組案

(1) 高校校内研修年間プログラム(例)

4月	○接遇1 電話対応(外部、保護者) ロールプレイ及びビデオ撮影で確認 ○接遇2 クレーム対応(外部、保護者)
5月	○面談1 コーチング(二者面談、部活動指導) ○面談2 キャリアカウンセリング(進路指導) ○特別支援が必要な生徒への具体的対応
6月	○年間指導計画と学習指導案の書き方 ○授業評価 ○授業研究 課題の把握 他科目の先生とチームを組んでテーマを決めて共同で指導案を作成し、授業を行う。 授業後は生徒の授業評価も加味して、ワークショップ型授業研究を行う。 (同一科目でチームを組まないのは、小規模校や教員数の少ない科目の実情を加味し、より生徒目線で検討できるように) 共同研究テーマは、言語活動の充実、ICTの活用、学び合い、発問、評価等 ※山形県教育センター(2011)の「授業研究ハンドブック高等学校版」によれば『先生方は、わかりやすい授業をしてくれる』と評価した生徒は20%に満たず、一方『自分たちは、わかりやすい授業をしている』と回答した先生は60%を超えていたそうです。これだけ大きな乖離があるならば、教員の視点のみによる授業改善は困難。 ○評価について(指導と評価の一体化、多様な評価方法、基準と規準)
7月	○道徳教育(主体的に考え、行動できる道徳的実践力の育成)
9月	○危機管理について(事例演習 学校事故、防災) ○いじめ対応 予防と対処、いじめ防止プログラム(加害・被害・傍観者)
10月	○カリキュラムマネジメント 学校の教育目標と各教科の連携、教育活動全般の見直し ○組織マネジメント 全職員による学校課題の把握・共有、活性化策の協議
11月	○授業研究 課題の解決策・改善策の協議

(2) 重点コースの設定…年間3回の校内研修を実施する場合。研修目的の明確化。

- 授業改善コース 年間指導計画と学習指導案の書き方・研究授業・評価
- 危機管理コース 電話対応・クレーム対応・危機管理
- 生徒支援コース コーチング・キャリアカウンセリング・特別支援
- マネジメントコース カリキュラムマネジメント・組織マネジメント・メンタルヘルスマネジメント

(3) 共通理解や合意形成を図るためのコミュニケーションを活用する研修の工夫

- ファシリテーターの育成(主事、主任以外の中堅職員も)
進行を務める司会者や、建設的な意見や気づきを促す質問者となり、積極的に意見交換が進むような雰囲気づくりができる教員の育成。
- 各種技法の習得
 - ・新たな発想を取り入れる発散技法
自由連想法(ブレインストーミング)と強制連想法(マトリクス法・SWOT分析)
 - ・未整理な内容をまとめる収束技法
KJ法、ウェビング、クロス法、概念化シート、特性要因図
 - ・経験・体験を深める態度技法
ロールプレイング、フィールドワーク

【資料】

1 校内研究等の実施状況に関する調査(2010) 国立教育政策研究所

○有効回答 公立高等学校254件(回収率75.6%) 私立高等学校77件(回収率47%)

〈主な調査回答項目〉

「教員間のコミュニケーションは十分である」

その通り(17.7%)、どちらかと言えばそう(58.7%)、どちらとも言えない(16.5%)

「学校全体で、問題点や課題を共有できている」

その通り(16.5%)、どちらかと言えばそう(62.6%)、どちらとも言えない(15.4%)

- ・校内研究のための全校的な組織が設置されている 高校26.8%
- ・研究テーマに即していくつかの部会が設定されている 高校8.3%
- ・研究推進のために、学年や教科チームが協力する機会がある 高校39%
- ・研究主任など校内研究を推進する担当者が決められている 高校37.4%
- ・学校として一つの研究テーマを設定し校内研究に取り組んでいる 高校35%
- ・個人で研究テーマを設定して、研究に取り組んでいる 高校12.6%
- ・全教員が研究授業を行うこととしている 高校25%
- ・教科や学年などの代表が研究授業を行う 高校47.3%
- ・授業時に指導案や略案を配付するが、事前検討は行っていない 高校49.8%
- ・研究テーマや授業に応じて、外部講師を招聘している 高校19.3%

2 校内研修の活性化が進んでいる学校の教員の意識

- ・発言しやすく、「参加している」という実感がある。
- ・話合いの進め方が工夫され、中身の濃いものになっている。
- ・経験の浅い教員も進んで参加できる。
- ・話合いの方向をいつもきちんと出した上で、研修に臨んだのでゴールが明確であった。
- ・学年で共通理解ができていて、やらなくてはならないことが明確に分かっている。
- ・研修テーマ達成のための切り口等も共通理解されていた。
- ・研修テーマに対して具体的にやることを決め、実行しようとしている。
- ・目標とする生徒の姿を決め、それに向けて取り組んでいくことができている。
- ・(研究の成果を)自分の担当教科の日常の授業に活かすようにしている。
- ・分かる授業の日常化を求めている。

3 校内研修活性化へ向けた考え方

○「共通理解」の段階で終わるのではなく、組織の全員が組織の目的や役割を十分理解し、取組への意義や意欲をもち、「納得」して行動に移す状態、すなわち「合意」がなされた上で動き出す組織でなくてはならない。

○「組織が先に存在しており、そこに人々が参画するととらえるのではなく、コミュニケーションが組織化のプロセスの一部そのものである」

○時代の変化による新しいミッションの要請により、学校の新しいビジョンを確立するためには、スクールアイデンティティを確立するための話合いや校内研修が必要であり、そのプロセスを通して協働文化を創造するとともに、学校改善に向けての実践が展開される必要がある。

3 「校内研修プログラム案」

クレーム対応研修（90分コース）

【研修のねらい】

- ・学校（教員）と家庭（保護者）等との間に起こり得るトラブルに備え、より良い関係を築く。

【研修の展開例】

1. 講義（40分）

（1）クレームについて

- ①クレームとは・・・クレームの定義を再確認
- ②ハインリッヒの法則など・・・クレームには背景があることを確認
- ③情報源として捉える・・・クレームを情報源として捉え活用する考え方を確認する
- ④現状を把握・・・クレームの増減の傾向や教員の抱える不安の傾向などを知る

（2）クレームへの対応

- ①接遇について・・・傾聴を中心とした接遇の重要性を確認
- ②タイプについて・・・クレームとその発信者のタイプと対応を知る
- ③クレームへの対応のプロセス・・・手順や基本事項の確認
- ④コミュニケーションについて・・・良いコミュニケーションの条件を確認
 - a) 聴き方のポイント
 - b) 話し方のポイント
 - c) 良いコミュニケーションを行うための留意点・・・望ましくないフレーズを確認
- ⑤不信感・混乱を招く対応
- ⑥電話対応について・・・顔を合わせず行うコミュニケーションの留意点

2. 演習（35分）（ロールプレイ 3 事例 1 事例…ロールプレイ 5 分、指導助言 5 分）

ロールプレイは代表者数名（若手中心）が全員の前で行う（他の先生は観察者として気付きと改善意見を出し合う） 保護者役はベテランに

※過去に実際にあった事例で適当なものがあればロールプレイで使いたい。

（全員ロールプレイをする場合は、VTR撮影し、声・表情等、自分の対応を確認してもらう）

3. 振り返り 振り返り用紙記入（5分）、共有（5分）

4. まとめ（5分）

【備 考】

・事前調査

研修校で過去にどのようなクレームが寄せられたかを聞く。

教職員の実態を管理職に聞く。

・準備

振り返り用紙

クレーム事例カード① 校則・きまり

安全確保のために携帯電話をもたせたいのに、なぜいけないんですか。
なにかあったら、学校は責任をとれるんですか。

クレーム事例カード② 生徒指導

先生の指導が厳しすぎて、うちの子が不登校になってしまいました。
どうしてくれるんですか。

クレーム事例カード③ 平等性

先生は、なぜ、うちの子ばかり悪者にするんですか。
ほかの子だって同じようなことをしているのに。

クレーム事例カード④ いじめ指導

ノートを隠されたり、机にいたずら書きされたりして子どもが学校に行く
のが嫌だと言ってます。先生にも相談したそうじゃないですか。

クレーム事例カード⑤ 生徒間トラブル

うちの子が帰り道でケンジってやつに殴られてけがをしたぞ。
子どもと親に謝罪にこさせろ。

クレーム事例カード⑥ 評価

通知表の行動面の評価に納得できません。うちの子はもっといい子です。
ほかの子の評価はどうなってるんですか。

クレーム事例カード⑦ 学習指導

前の担任は宿題をたくさん出してくれたのに、先生はあまり出さないから
うちの子が家で全然勉強しなくなった。もっとしっかり指導してくれ。

クレーム事例カード⑧ 安全体制

学校の遊具で、またケガをして帰ってきました。
学校の安全管理はどうなってるんですか。

コーチング研修（90分コース）

【研修のねらい】

- ・コミュニケーション能力の育成を図る。具体的には、次の能力の育成を目指す。
 1. 担任としてのクラス経営能力
 2. 主事・主任としてのマネジメント能力

【研修の展開例】

- 1 はじめに **【概念形成Ⅰ（手法の理解）／5分／各自】**
コーチングの概要について、別紙の「資料1・資料2」を読む。
- 2 共有 **【概念形成Ⅱ（スキルの確認）／10分／2～3人】**
 - ①コーチングについて、「資料1の1-1」を確認する。（3分）
 - ②コーチングについて、「資料2の1-2～4」を学び合う。（7分）
- 3 演習1 **【スキル形成Ⅰ（聴く・認める）／10分／2～3人】**
テーマ（例）『最近でうれしかったこと』『自分の好きなこと、得意なこと』、他
「資料2の1-2」を参考に進める。
 - ①全員（順番・分担分け） 共有 （2分）
 - ②Aさん クライアント役 話す （1分）
 - ③Bさん コーチ役 同上 （聴く）
 - ④Cさん オブザーバー役 感想 （1分）※②～④について、3人が行う
⑤全員（演習1の体験について） 振り返り （2分）
- 4 演習2 **【スキル形成Ⅱ（話す（質問する）・フィードバックする）／15分／2～3人】**
テーマ（例）『もし10億円あったら』『将来実現したいこと』、他
「資料2の1-3・1-4」を参考に進める。（特に5W3Hを意識する）
 - ①「資料2の1-3・1-4」の確認 （5分）
 - ②演習1と同じ手順で進める。（10分／以下③振り返りも含む）
 - ③振り返り：視点＜質問と詰問、回答の広がり、新たな視点、相手の立場＞
- 5 演習3 **【スキル形成Ⅲ（セッションの実際）／35分／2～3人で1回】**
テーマ（場面例）『生徒との二者面談』『部活動の指導』『分掌運営』、他
「資料2の1-5」の流れ（①～⑩）に従って進める。
 - ①役割の決定（順番） （2分）
→クライアント（生徒・保護者・同僚）役、コーチ（担任・同僚）役、オブザーバー役
 - ②各役割ごとの準備 （4分）
○クライアント役 ○コーチ役
→テーマ『 』の決定 →「資料2の1-5」の手順確認
 - ③コーチング開始 （21分／7分×3人）
 - ④終了後、オブザーバー役の感想 （3分／1分×3人）
 - ⑤体験について3人で振り返り （5分）
- 6 振り返り **【まとめ（振り返り）／5分／4～5人】**
 - この時間を通して、よかったことは何ですか？ [正味80分+調整10分]
 - 他にもあったらお話しください。

【備考】

- ・演習で3人のグループで実施する際には、クライアントとコーチ以外のもう一人は、観察役として二人のやり取りを見て、感想を述べるなどアドバイスをする。

1-1 コーチングの基本

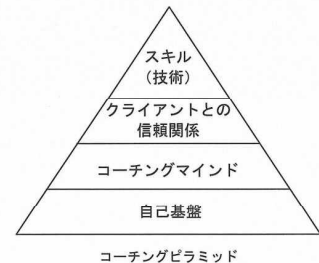
A コーチングとは？

『相手の目標達成やパフォーマンス（成果・業績）向上のために、相手の味方になり、対話によって勇気付け、気づきを引き出し、自発的行動を促すコミュニケーション・スキル』

気づきが行動を生み出す！ 答えは相手の中にある！

B コーチングの三原則

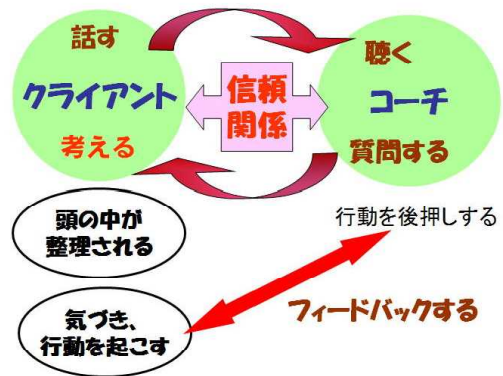
- ① 双方向のコミュニケーション (お互いが聞いて話す)
- ② 継続的に関わる (一時的にはなく、フォローし続ける)
- ③ 相手に合わせてコミュニケーションをとる
(一人ひとりの違いに応じ個別対応する)



C コーチングとカウンセリングの違い

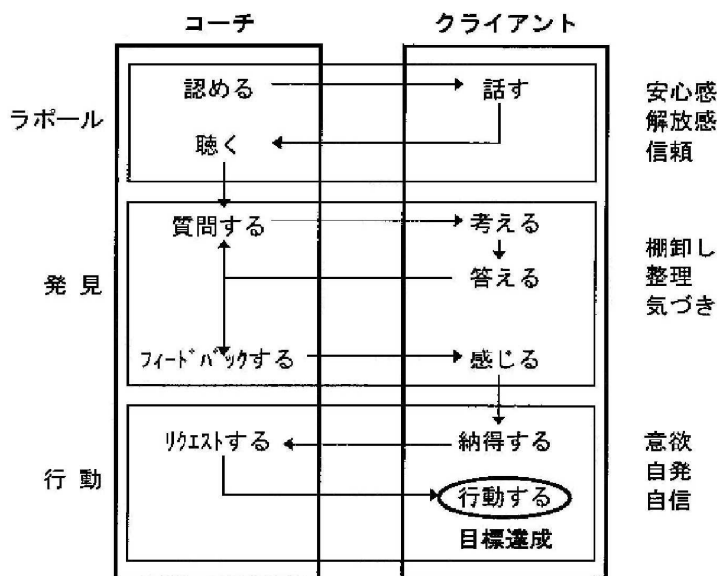
	カウンセリング	コーチング
扱う時間	現在と過去	現在と 未来
方法	傾聴	傾聴・問 い かけ
働き	【カウンセラー】 相談役・受け止める・癒す	【コーチ】 行動やスキルの 強化・促進
目的	問題解決	進歩・成長・ 目標達成

D コーチングの仕組み



E コーチングの構造

① 「聴く(認める)」「話す(質問)」「フィードバック」の構成



② OSKARモデルの構成

- ★Outcome : 目標
- ★Scale, Scaling : 測定
- ★Know-how : やり方
- ★Affirm : 肯定
- ★Review : 振り返り

② GROWモデルの構成

- ☆Goal : 目標
- ☆Reality : 現状把握
- ☆Resource : 選択肢(資源)
- ☆Options : 行動計画
(優先順位)
- ☆Will : 意思確認

※独立行政法人教員研修センター制作・著作「学校におけるコーチング」のDVDを具体的な例として用いるとさらに効果的です。(総合教育センター2F カリキュラムセンターで貸出しています)

1-2 「聴く（認める）」スキル

①安心感・開放感・信頼関係を築く（ベース）

- ペーシング（同調）：相手のスピードやテンポに合わせます。
- ミラーリング（鏡）：相手の言動に合わせて、言葉や動きを表出します。
- 言葉以外のメッセージ：ボディランゲージ、表情、瞳・視線、しぐさ、距離、タッチ
話し方・言い方、声の質、声のトーン、声の大きさ、声の強さ

②聴く

- うなずく：うんうん（無音）
- あいづち：うんうん、なるほど、へえ
- 語尾の反復：（認めるに同じ、場面の違い）
- 最後まで聞く（沈黙）：考える時間の提供
- 接続詞：それで？それから？他には？

×しかし×でも

聴く＝心できく

勝手な思いこみを手放して聴くことが大事

③認める（承認）

- 適切な反応：そうですね、いいですね
- 言葉を繰り返す：疲れているんですね
- 第三者の言葉：尊敬している人物を主語に

例 「髪を切ったのですね」

○事実を伝える

×似合っている（評価）

※「ほめる」と「認める」は違う

1-3 「話す（質問する）」スキル

☆こちら側の都合から質問するのではなく、相手が考え、話すために質問する☆

【クローズドクエスチョン】

- 考えなくても答えられる「はい」「いいえ」
- 答えるのが簡単
- 確認できる
- 特定できる
- 得られる情報量は少ない
- 相手に緊張感を与えやすい
- 命令口調になりやすい

<有効な場面>

- ・話のきっかけ作り
- ・確定や決定を引き出すとき

<比較例>

「朝ごはんは、食べましたか！」

「リンゴは好きですか！」

【オープンクエスチョン】

- 自由に話ができる
- 得られる情報量は多い
- 相手の話を引き出しやすい
- 相手の思考を促進させる
- 考えなければ答えられない
- 聞き手の意図と異なった話の展開になり得る

<有効な場面>

- ・相手の本音や、相手が意識していない答えを引き出すときに有効

<比較例>

「朝起きたら何をしますか？」

「今の世界情勢は？」

<p><場面例></p> <p>(きっかけ作り)</p> <p>自分(コーチ)「クラスうまくいってますか?」</p> <p>先生(クライアント)「はい、何とかやっています。」</p> <p>自分「少しまとまりは出てきましたか?」</p> <p>先生「いいえ、まとまりというところまでは、まだ・・・。」</p> <p>(確認・決定)</p> <p>自分「〇〇先生、水曜日出張でしたね。」</p> <p>先生「はい、そうです。」</p> <p>自分「じゃあ授業変更が必要ですね。」</p> <p>先生「はい、お願いします。」</p>	<p><場面例></p> <p>自分(コーチ)「ところでこの指導案、さらに工夫できるとしたらどんなことができそうですか?」</p> <p>先生(クライアント)「そうですね。例えば・・・。」</p> <p>.....</p> <p>自分「いいですね。それはいつの授業で試せますか?」</p> <p>先生「今度の月曜日の5時間目の授業でやってみます。」</p> <p>自分「そう。やったらどんな反応がありそうかな?」</p> <p>先生「ICTを使い～ので、意欲的に授業へ向かってくれると思います。」</p> <p>自分「他に、何か私に手伝えることはありますか?」</p> <p>先生「今のところは・・・特にはないです。ありがとうございます。」</p>
<p>When How</p> <p>Where How much</p> <p>Who How many</p> <p>What</p> <p>Why 5W3Hの活用</p>	

1-4 「フィードバックする」スキル

<p>● I (アイ) メッセージ → 主語は「私」</p> <p>「私には、あなたが本当にやりたいことは別にあるように聞こえてきます」</p> <p>「私には、あなたが心から楽しんでいることが伝わってきます」</p> <p>「私には、あなたが不安に感じているように感じとれます (受け取れます・見えます)」</p> <p>(コーチが確認する場面)</p> <p>「お話をうかがっていると、私には～のように感じ取れますが、そうですか?」</p>

1-5 「10分間コーチング(解決構築)」の流れ

質問例	OSKARモデル	GROWモデル
①「何の話ですか?」		
②「それは、どうなったら最高ですか?」	(O)	[G]
③「最高を10点だとしたら、今は何点ですか?」	(S)	
④「既にできていることや、うまくいっていることは何ですか?」		[R]
⑤「他には?」「他には?」 ←水平(広げる)	(K)	[R]
⑥それを「1点アップのためにできることは何ですか?」		
⑦「他には?」「他には?」 ←垂直(深める)		[O]
⑧「私から提案してもいいですか? (～見えます)」(1回に1個/フィードバック)		
⑨「何をやりますか?」(「いつごろまでに達成できますか?」)		[W]
⑩「応援しています。」	(A)	
⑪「ここまで話してみて何を感じていますか?」		
(⑫振り返り)	(R)	

キャリア・カウンセリング研修（90分コース）

【研修のねらい】

- ・キャリア・カウンセリングの概要を理解する。
- ・キャリア・カウンセリングの実際について、演習を基にイメージを持つ。

【研修の流れ】

1. はじめに

- (1) 研修のねらいを確認する。
- (2) 「キャリア・カウンセリングとは」「キャリア・カウンセリング（開発的カウンセリング）と治療的カウンセリング（心理的な治療）及び予防的カウンセリング（問題の予防）との違い」について、違いを大まかに説明する。 **15分**

2. 演習1（2～3人のグループ）

- (1) 進路指導での面談として、悪い例を提示し、問題点を洗い出し、付箋紙に書き込み台紙に貼る。さらに、類似した内容の付箋紙ごとにまとめ、問題点を整理する。
※ 面談の悪い例としては、生徒の考えを否定し、教師の考えを一方向的に押し付けるようなものを例とする。
- (2) 整理した問題について、どう改善したらよいかを改善シートに書き、改善策を共有する。 **15分**

3. 講義

- (1) キャリア・カウンセリングの目的
 - ① 意思決定の支援（個々の生徒の価値観を明確にする）
 - ② 自己理解の支援（個々の生徒の価値観を見直させ、経験を整理する）
 - ③ 成長への支援（苛立ち、悔しさ、失望、自信喪失を成長のバネに変える）
- (2) カウンセリングマインド：「傾聴」「受容」「共感的理解」
- (3) キャリア発達とアセスメント 等 **20分**

4. 演習2（3人1組でのロールプレイ）

生徒との面談を想定し、一人が担任（カウンセラー）、もう一人が生徒（クライアント）最後の一人が観察者（アドバイザー）となり、キャリア・カウンセリングを行う。5分でカウンセリングを行い、2分で観察者はカウンセリングについてアドバイスをする。役割を交代しながらすべてがカウンセラーを経験する。 **25分**

5. まとめ・振り返り

- (1) カウンセリング・マインドについて、振り返り（10分）
- (2) 共有（5分） **15分**

【備考】

○事前準備について

- ・付箋紙
- ・マジック
- ・演習1ワークシート（改善策検討シート、付箋貼付用シート）

演習 1 二者面談における問題点の改善方法 _____ グループ

	面談における問題点	どう改善するか？（具体的に）
1		
2		
3		
4		
5		

「キャリア・カウンセリング」研修振り返りシート

今回の研修で気がついたこと、分かったこと

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

「キャリア・カウンセリング」研修振り返りシート

今回の研修で気がついたこと、分かったこと

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

「社会的・職業的自立に必要な能力を育成する インターンシップの在り方」研修（90分コース）

【研修のねらい】

- ・キャリア教育に係る基本的事項（「キャリア」とは？「キャリア教育」とは？「働く」とは？）を理解する。
- ・インターンシップが、基礎的・汎用的能力の育成につながるイメージを持つ。
- ・インターンシップ充実のための留意点について理解する。

【研修の流れ】

1. はじめに
 - (1) 研修のねらいを確認する。
 - (2) 研修の流れ（講義→協議→講義→振り返り）を確認する。 **5分**
2. 講義Ⅰ「キャリア教育とインターンシップについて」

キャリア教育に係る基本事項（「キャリア」とは、「キャリア教育」とは、「働く」とは等）及びインターンシップについて確認する。 **20分**
3. 協議「インターンシップで身に付けることができる能力とは」（4人グループ）
 - (1) 個人ワーク（5分）

協議用シートに、「インターンシップで身に付けることができる能力」を記入する。
 - (2) グループ協議（15分）

(1)で記入した内容を基に、グループで協議を行う。
 - (3) グループ代表者が発表を行う。（10分） **30分**
4. 講義Ⅱ「キャリア教育で育成を目指す力「基礎的・汎用的能力」について」

発表内容と絡めて、キャリア教育で育成を目指す力「基礎的・汎用的能力」について確認する。 **10分**
5. 講義Ⅲ「インターンシップ充実のための留意点」

インターンシップの充実のための留意点について、具体例（事前・事後学習の充実、実施中の指導の在り方等）を交えながら説明する。 **15分**
6. 振り返り・まとめ
 - (1) グループごとに振り返りを行う（各自1分程度）。
 - (2) 本日のまとめを行う。 **10分**

【備考】

- 事前準備について
 - ・協議用シート

協 議 用 シ ー ト

個人ワーク：「インターンシップで身に付けることができる能力」とは？

グループ協議

授業改善研修（90分コース）

【研修のねらい】

- ・授業を通して生徒につけたい力が何かを再認識するとともに、他の教科・科目との共通項を見出していく。
- ・上記を達成させるための実践事例を知ることで、授業力を高める。
- ・授業改善のために研究授業および授業研究会を行うことの重要性を理解する。

【研修の展開例】

1. はじめに（3分） 高校の授業改善をどう進めたらよいか（小・中との違い）
2. 演習1 授業を通して、生徒につけたいと思っている力（礼儀など学力以外でも可）を付箋1枚につき一つ書く ※付箋の粘着部が左側にくるようにして横書きで、左上に教科名を記入。（黄色の付箋に5分で10枚を目標に）
3. 演習2 用意した台紙の「授業を通して生徒につけたい力」に書いた付箋を貼り付け、類似した内容の付箋ごとにまとめて表題をつける。（10分）
表題例：礼儀、遵法精神、思考力、表現力、コミュニケーション力、技術力、忍耐力
4. 演習3 演習1で書いた力をつけるために授業で実践していることを、付箋1枚につき1つ書く。（ある程度具体的に）※付箋の粘着部が左側にくるようにして横書きで、左上に教科名を記入。（黄色の付箋に5分で10枚を目標に）
例：チャイムスタートチャイムエンド、実習ごとのレポートA4一枚、毎時間一分間スピーチ3人ずつ、複数の資料から課題を読み取る演習
5. 演習4 台紙の右側の「そのために授業で実践していること」欄に演習3で書いた付箋を左側の表題に対応するよう貼り付け、類似した内容の付箋ごとにまとめ表題をつける。（10分）
表題例：時間や締め切りを守らせる工夫、レポート提出・評価、口頭発表、レジюме
・ワークシートの工夫、ICTの工夫
6. 演習5 他班の演習シートを見て回る。（10分）
7. 講義（30分）
8. 振り返り用紙記入（5分） 共有（5分）
9. まとめ（7分）

【備考】

- ・用意するもの（台紙、付箋、ストップウォッチ）

授業改善研修（90分コース）

～言語活動の充実～

【研修のねらい】

- ・「考える」→「書く」、「話す」、「聞く」、「読む」等の言語活動を通して研修することで、授業での有効性に気付いてもらう。
- ・教科内・教科外の先生方の授業実践について共通理解する。
- ・学年や教科間の連携など、学校組織としてカリキュラムの中に言語活動を効果的・計画的に位置づけることの重要性について考えてもらう。
- ・効果的な言語活動の具体的事例について学び、各教科でどのような活動が有効か考えてもらう。

【研修の展開例】

1. はじめに（3分）「授業改善とは何か」

2. 演習

各教科別グループ○班(30分)

(1) 各先生が実践している言語活動について下記事項①～⑥を、付箋(大)に書き込む。(5分)

①教科・科目名

②活動の種類・内容(～を読む、～について調べて書く、表にまとめる、感想を話す、話し合う
発表する、発表を聞いて評価する、プレゼンをする、等、ある程度具体的に)

③時間…1時間中でやる場合、どれくらいやっているか 少ない時で5分、多い時で20分等

④頻度…毎時間、3時間に1度、月に1度、学期に1度等

⑤実践上の課題・悩み やって見たがうまくいかない、どうすれば効果的な活動になるか

⑥できない、少ない理由 あまり実践できていない場合は、なぜできないかの理由を

(2) 付箋をホワイトボード上のシートに貼り、発表しあう。一人2分(12分)

(3) 他教科のシートを見合う。(自分の教科に生かせる実践を学ぶ)(10分)

3. 教科混合グループ○班(25分)

(1) 他科目の先生に授業で実施してほしい言語活動について下記事項①②を付箋(小)に書き込む。 できるだけ多くの教科について、その特性を踏まえて一つは書き込む。(10分)

①教科・科目名

②活動の種類・内容を具体的に

(2) 付箋をA2別紙教科別に貼り付け、○で囲み教科名を書く。(2分)

(3) 自分のグループの付箋を見合う。(3分)

(4) 他グループのシートを見合う。(他教科・自分の教科への期待を知る)(10分)

4. 講義 (20分)スライド使用

(1) 言語活動の充実に関する基本的な考え方

(2) 言語活動の充実を図るカリキュラム・マネジメント

(3) 思考力・判断力・表現力を育むための学習活動と例

(4) 高等学校での言語活動指導の留意点

(5) 総合的な学習の時間での言語活動

(6) 特別活動での言語活動

(7) 言語活動の充実を図るために

資料 言語活動を充実させる指導と事例(中学校・高等学校)

5. まとめ (10分)

(1) 研修を通して、学んだこと気付いたことを振り返りシートに書き込む。(5分)

(2) グループ内でシェアする。(1分×4人=4分)

(3) 終わりに

【備考】

- ・用意するもの(台紙、付箋、ストップウォッチ)

授業評価研修(60分コース)

【研修のねらい】

- ・教師一人ひとりが自分の授業を振り返り、専門性を一層高め、より質の高い授業と生徒の力を伸ばす授業づくりを目指す。
- ・自分の授業の課題や強みを把握し、それを基に新たな目標を設定して継続的な授業改善を図る。

【研修の展開例】

- 1 はじめに(3分)
高校の授業評価をどう進めたらよいか。授業改善にどのように生かすか。
- 2 講義1(10分)
新学習指導用要領における「観点別評価」について
(特に「表現」について従前の観点との違いを確認する)
- 3 講義2(10分)
普通教科(〇〇科)における「観点別評価・評価規準」について
観点別評価の参考例を提示
専門教科(〇〇科)における「観点別評価・評価規準」について
観点別評価の参考例を提示
- 4 協議1(25分)
各教科における「観点別評価」を意識した授業展開案と評価場面について
講義2及び国研資料(評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料)を基に、教科毎で評価場面と評価方法及び評価規準(基準)案を作成する。
個人作成(10分) → グループ協議(10分) → 全体で発表・協議(5分)
- 5 まとめ(7分)
新学習指導用要領における「観点別評価」における「表現」活動を重視した授業実践例の紹介
(言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】文科省)
- 6 振り返り用紙記入(5分)

【備考】

- ・事前に、別紙の資料1を用いて、授業の自己評価や資料2を用いて他者による評価を実施していてもよい。

授業評価シート

(資料1)

様々な観点から評価を行い、分析することで授業改善の成果を確認し課題を把握する。

実施日 平成 年 月 日 ()			
授業評価シート(自己評価用例)			
教科 (科目)			
単元名 (題材名)			
項目	No.	評価観点	評価
授業の準備 教材の工夫	1	実態に応じた教材 (ICT・ワークシート等) の工夫をしている	A B C
	2	発問・板書計画を作成している	A B C
	3	予想される反応を考え、対応した手立てを考えている	A B C
授業の充実	4	学習マナーや態度・姿勢等のしつけに配慮している	A B C
	5	学習意欲を喚起する活動を展開している	A B C
	6	基礎的な知識・技能の定着を図っている	A B C
	7	思考・判断・表現力を高める学習活動を設定している	A B C
授業の進め方	8	授業の始めに本時のねらいを示している	A B C
	9	生徒の発言を採り上げ、授業に生かしている	A B C
	10	内容を理解するのに適切な速さで進めている	A B C
	11	明瞭で聞き取りやすい話し方をしている	A B C
	12	本時のねらいを達成している	A B C
生徒主体の 授業の工夫	13	自ら学び、考える主体的な学習活動を設定している	A B C
	14	生徒が互いに学び合う活動を展開している	A B C
説明の分かりや すさ	15	実態に応じた説明や指示をしている	A B C
	16	学習の流れやポイントがよく分かる板書をしている	A B C
	17	一貫性やまとまりのある授業内容にしている	A B C
生徒への接し方	18	良かった点をタイミング良く褒めるようにしている	A B C
	19	個々の学習状況の把握に努め、適切に支援している	A B C
	20	明るい表情、温かさ、ユーモアを心掛けている	A B C
『振り返り』			
改善した点			
課題			

※評価のABCについては、A(十分満足)、B(満足)、C(努力を要する)意味である。

それぞれの項目について具体的評価規準を定める必要がある。

(例)実態に応じた教材 (ICT・ワークシート等) の工夫をしている

A…意欲・関心、技能に加え、思考・判断・表現力を高めるのに適した教材を工夫している。

B…生徒の意欲・関心もしくは技能を高めるのに適した教材を工夫している。

C…教材が生徒の実態に合っていない。

授業評価表（他者評価用）

（資料2）

記入者：氏 名							
授 業 実 施 日		指 導 者					
年 組		生 徒 数					
教 科 ・ 科 目		単 元 等					
観 点			評 価				
1	授業の内容が生徒の興味関心をひくものだったか		5	4	3	2	1
2	授業の内容は生徒のレベルにあったものであったか		5	4	3	2	1
3	授業の内容に一貫性・まとまりがあったか		5	4	3	2	1
4	授業の主題やねらいがはっきりしていたか		5	4	3	2	1
5	内容を理解するのに適切な速さで進められていたか		5	4	3	2	1
6	問題意識を刺激するような工夫がなされていたか		5	4	3	2	1
7	提示資料や配布物は、分かりやすく役立つものだったか		5	4	3	2	1
8	板書は見やすく、分かりやすいものだったか		5	4	3	2	1
9	プロジェクタやビデオ等の視聴覚機器は、有効であったか		5	4	3	2	1
10	話し方は、明瞭で聴き取りやすかったか		5	4	3	2	1
11	分かりやすく教える工夫をしていたか		5	4	3	2	1
12	一方的でなく、生徒の思考や発言をうながしていたか		5	4	3	2	1
13	助言や指示は簡潔で適切に行えたか		5	4	3	2	1
14	学習マナーや態度・姿勢等の躰に配慮していたか		5	4	3	2	1
15	熱意を持って授業を行っていたか		5	4	3	2	1
16	表情に明るさや温かさ、ユーモアが感じられたか		5	4	3	2	1
17	生徒は授業に集中していたか		5	4	3	2	1
18	生徒の学習活動は活発で、よく発言・発表をしていたか		5	4	3	2	1
19	生徒は学習内容をよく理解したか		5	4	3	2	1
20	授業のねらいが達成できたか		5	4	3	2	1
(評価できない観点は3とする)			観点別評価	合計点		100	
5 (かなり高いレベル) 4 (やや高いレベル) 3 (標準的なレベル) 2 (やや低いレベル) 1 (かなり低いレベル)							
・よかったと思われる点 ・悪かったと思われる点 ・その他							

道徳教育研修（90分コース）

【研修のねらい】

- ・ 中学校における道徳教育についての理解を深め、その価値項目を基にして、LHRでの高校道徳の授業を個人やグループ活動で構想し、実践への具体的なイメージをふくらませます。

【研修の展開例】

- 1 はじめに 本日の研修のねらいを確認する。
(3分)
- 2 講義 1 中学校における道徳教育についての理解を深める（中学校道徳内容項目の確認、「私たちの道徳」の紹介等）。
(12分)
- 3 演習 1 <道徳教育構想演習「LHRにおける道徳の授業を構想する」1>
(個人・15分) 「読み物資料」や「私たちの道徳」を基に、LHR（テーマ:法や社会のルールを考える）における授業を構想する。まず、演習のねらいや進め方についての説明を受ける（5分）。その後、各受講者は資料の読み込みを行い（5分）、各自で構想を練る（5分）。
- 4 演習 2 <道徳教育構想演習「LHRにおける道徳の授業を構想する」2>
(班・30分) 各班で協議しながら、指導計画を作成する。
- 5 発表 各班代表者が発表を行う。
(10分)
- 6 まとめ 高等学校・中等教育学校における道徳教育の推進にあたり、押さえておくべき事項について確認しながら、講評を行う。
(15分)
- 7 振り返り 振り返り用紙を記入し、交流する。
(5分)

【備考】

- ・ 資料 1 「中学校学習指導要領 道徳 内容項目」
- ・ 資料 2 「読み物資料」（『闇の中の炎』）、「資料分析表」
- ・ 資料 3 「私たちの道徳」（『二通の手紙』）、「指導例」

◆中学校道徳目標(学習指導要領より)

第3章 道徳

第1 目標

道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。

◆中学校道徳内容項目

1 主として自分自身に関すること。

(1)	健康・節度・生活習慣	望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。
(2)	希望・勇気・強い意志	より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。
(3)	自律・自主性・誠実・責任	自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。
(4)	真理・真実・理想の実現	真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。
(5)	向上心・個性伸長	自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。

2 主として他の人とのかかわりに関すること。

(1)	礼儀	礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。
(2)	人間愛・思いやり	温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。
(3)	友情・信頼	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。
(4)	男女理解・異性観	男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。
(5)	寛容・謙虚・個性尊重	それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。
(6)	感謝	多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。

3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること。

(1)	生命尊重	生命の尊さを理解し、かけがえない自他の生命を尊重する。
(2)	自然愛・畏敬の念	自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心をもち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。
(3)	強さ・気高さ・生きる喜び	人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることに喜びを見いだすように努める。

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること。

(1)	法やきまり・権利と義務	法やきまりの意義を理解し、遵（じゆん）守るとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。
(2)	公德心・社会連帯	公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。
(3)	正義・公正・公平	正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。
(4)	社会的役割と責任	自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。
(5)	勤労・奉仕	勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。
(6)	家族愛	父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。
(7)	愛校心	学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。
(8)	郷土愛・先人への感謝	地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。
(9)	愛国心・伝統と文化	日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。
(10)	国際理解	世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。

闇の中の炎

「ああ、だめだ。」

理沙は、描きかけのスケッチブックをビリビリと破った。

明日がコンクールに出す作品の下絵を提出する締切なのに、全然描けない。それどころか題材もアイデアも浮かばない。理沙は大きくため息をついた。

去年の作品は自分でも手応えがあった。先生もすごく褒めてくれて、来年は入賞を目指せるよって励ましてくれた。期待してくれてるのに。今年は出品すらできないかもしれない。

不安と焦る気持ちを打ち消すように、理沙は本棚から一冊の本を取り出した。先週行った絵画展で父に買ってもらった画集だ。パラパラとめくつていく理沙の手は、あるページで止まった。理沙の目はそのページに釘付けとなった。暗い夜の闇の中に、赤い炎が燃えている。その炎の周りを囲んで座る人々の姿が描かれた版画だった。

たちまち理沙の中に、一つのイメージが浮かんだ。火と、それに引きつけられる人々。理沙はスケッチブックを取り出すと、一心不乱に描いていった。描ける。これならきつと。

翌日、理沙は美術部の先生に下絵を見せた。

「これは素晴らしいね。さすが庄司さんだ。」

「ありがとうございます。頑張ります。」

「この絵は何を描いたものなの。テーマは何？」

問われて、一瞬、理沙は言葉に詰まった。

「あの、えーと、去年の夏、キャンプファイヤーに行つて、その時の思い出を……。」

「なるほど、そうか。これは仕上がりが楽しみだ。タイトルは？」

「キャンプファイヤーの夜、です。」

思わず口にしてしまったが、意外にいいタイトルかもしれない。理沙は嬉しくなった。頑張つて作品を仕上げよう。絵の具を混ぜる理沙の心はずんだ。

「理沙、何やってるの。」

有紀の声に教室から窓の外を見ていた理沙はびくつとした。校庭ではサッカー部が練習を始めている。有紀はいつまでも美術室に来ない理沙を呼びに来たのだ。作品は順調に仕上がってきている。同じ美術部の有紀も「いいね。」と楽しみにしてくれている。だから来るのが遅い理沙が気になったのだろう。締切は迫っている。

だが数日前から、筆を持つ理沙の手は止まりがちになっていた。色を作る時、キャンパスに絵筆をのせる時、理沙の心に何度となく、ある声が聞こえてくるのだ。

これでいいのかしら。なんだか人の絵を真似してるみたい。

ううん、と理沙は思わず首を横に振った。別に全部真似したわけじゃない。画集を見ていて自分のアイデアが浮かんだだけ。あの作品は版画だったし、私のは油絵。タッチも構図も違う。全然印象が違う。自分の絵には別のテーマもある。

手が止まるたびに、理沙は繰り返しそう言い聞かせた。これでいいんだ。

今日は一番大事な炎のところに色を加えていくはずだった。でも、何か気が進まない。それで美術室へ行くのをなんとなくためらっていたのだ。

「有紀、私、今日はお休みする。」

「ええ、どうしたの。大事な時なのに。何か用事なの。」

驚く有紀から顔を背けるように、理沙は鞆かばんを持って教室を駆け出していった。

「あら、もう帰ってたの。どうしたの。」

作品の仕上げで連日帰りが遅い理沙が先に帰宅しているので、母は驚いた声を上げた。理沙は、「ちよつと。」

とあいまいな返事をして口ごもった。

「ずっと集中してたから疲れが出たのかもね。そういう時は少し休んだ方がいいわ。今日はお父さんも早いよ。お母さんも理沙に負けずに美味しいもの作るから、期待してて。」

母の明るい声に理沙は少し笑顔になった。

家族揃った食事で、父は上機嫌だった。会話がはずんだところで理沙が口を開いた。

「ねえ、お父さん。有名な画家の作品を真似して描くのがつて悪いことじゃないよね。」

「なんだい、突然に。そうだね。いいなと思う作品を模写してタッチや色遣いを真似してみるのはい練習になるよ。自分らしいスタイルを作っていくためにも必要なことだね。」

「うん。それは分かってるけど……。」

いつもと違って歯切れの悪い理沙の様子に、父も何か違うものを感じたようだ。

「友達が……、あの、美術部の友達がコンクール作品を作ってるんだけど。別の作品からヒントをもらったつて、そう言ってたから。私は、ただヒントをもらったただけなんだから、いいんじゃない、つて答えたんだけど。だけど、ちよつと気になったから……。」

「ああ、理沙も描いているコンクールの出品作か。他の人の作品を見てアイデアが浮かぶことは誰でもあるだろうね。そのぐらい気にすることないんじゃないか。」

父の言葉に理沙はちよつとほつとした。その様子を見て父は言葉を続けた。

「だけど、その友達は、気にしてるんだね。なんで気になるんだろうね。」

「うーん。分からないけど。」

「お父さんや理沙が、構わない、つて言ったら、気にならなくなるのかな。」

理沙は黙ったまま、自分を見つめる父から目をそらした。

「その友達は、なんだか自分への言い訳を探してるように見えるな。そんな気持ちでいい作品ができるんだろうか。作品はずつと残るんだよ。」

顔を上げた理沙と目が合うと、父は優しい声で続けた。

「その友達の気持ちをもつと聞いてあげたらどうかな。本当は、その子はもう分かってるんじゃないか。自分がダメだと思つたらダメだつて。」

部屋に戻った理沙の胸に父の最後の言葉が響いた。

ずっと見ないでいたあの版画を理沙はもう一度開いて見た。暗闇に浮かびあがる赤い炎。その炎の筋が周りの人々をかすかに照らし出している。

画家はこの炎を見たんだ。闇の中で人々を照らす炎を。でも自分にはそれが見えない。この炎を見ていないから。暗闇の中で輝くこの炎を私は描くことはできない。

自分がダメと思つたらダメなんだ。

理沙はそつと画集を閉じて本棚に戻した。あの作品を完成することはできない。新しい作品を描き始めてももう締切には間に合わないだろう。でも……。

理沙はスケッチブックを取り出すと、夢中で鉛筆を走らせていった。

文部科学省『中学校道徳読み物資料』より

道徳 資料分析表 資料名『闇の中の炎』

資料の主な場面	主人公の心の動き	発問	生徒の反応・とらえ	価値
<p>コンクールに出す作品の下絵の締切が明日なのに、里沙は全然描けない。不安を抱えながら画集を見ていると、ある版画に目がとまった。</p>	<p>コンクールが迫っているのに、全然描けない。周囲からの期待も大きいのに、今年は出品すらできないかもしれない。そんな不安に駆られている。</p>	<p>提出物などの締切が迫っているのに、できあがりそうにないときはどのような気持ちになるだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・はやく仕上げなければならぬ。 ・焦るばかりで全然進まない。 ・とにかく少しでも進めよう。 ・イライラして周囲に八つ当たりをしてしまう。 ・間に合わなかったら、休んでしまおう。 	
<p>イメージが浮かび、里沙は下絵を仕上げ、美術部の先生に見せる。すばらしい出来栄を褒められるが、テーマについて聞かれ、言葉に詰まってしまう。</p>				
<p>締切が迫っているのに、筆が進まない。美術部員の有紀も作品の仕上がりを楽しみにしてくれているが、一番大事な炎に色を付ける日に部活を休んでしまった。</p>				
<p>帰りが早いことに家族は驚く。夕食で、里沙は心に引っかかっていることを、まるで友達のことのように父に話す。父の最後の言葉が里沙の胸に響く。</p>				
<p>ずっと見ないでいたあの版画を見て、締切には間に合わないだろうと思いつつも、里沙はスケッチブックを取り出し、夢中で鉛筆を走らせていった。</p>				

4 社会に生きる 一員として

- (1) 法やきまりを守り社会で共に生きる
- (2) つながりをもち住みよい社会に
- (3) 正義を重んじ公正・公平な社会を
- (4) 役割と責任を自覚し集団生活の向上を
- (5) 勤労や奉仕を通して社会に貢献する
- (6) 家族の一員としての自覚を
- (7) 学校や仲間に誇りをもつ
- (8) ふるさとの発展のために
- (9) 国を愛し、伝統の継承と文化の創造を
- (10) 日本人の自覚をもち世界に貢献する

法やきまについて学んだこと



私たちの社会には、国で作られた法律、都道府県や市町村で作られた条例などがある。また、学校や学級のきまを守って、学校生活を送っている。

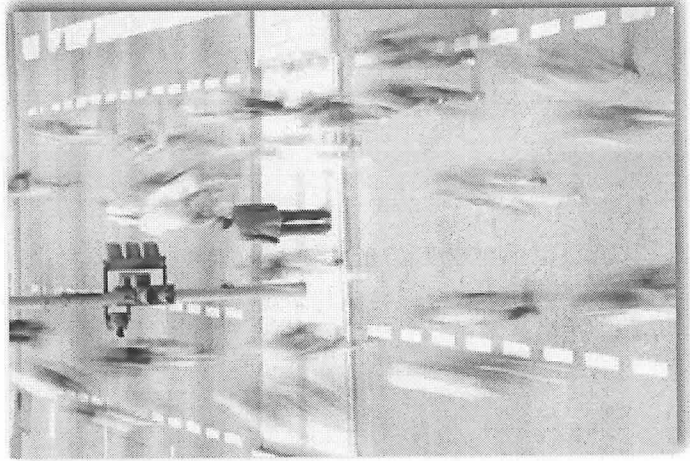
法やきまは守らなければいけないと分かっているけど、忘れてしまったり、どこか反発したくなったりすることはなかっただろうか。

- 法やきまについて学んだことや、生活のいろいろな場面で知ったこと、感じたこと、考えたことを書いてみよう。

人間は誰にでも、自由に幸せを求めて生きる権利がある。
しかし、ときとして、
自分の権利と他人の権利とが対立することがある。

私たちの社会は、
一人一人の支え合いがなければ、成り立たない。
そのため一人一人の権利を保障するとともに、
それぞれが果たすべき義務を明らかにしたり、
対立を未然に防いだり、解決したりする方法として、
法やきまを生み出してきた。

法やきまの意義を理解した上で、
互いに権利を尊重し、
安全で安心して暮らせる社会を実現するために、
一人一人が果たすべき役割を考えていきたい。

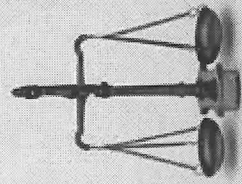


(1) 法やきまを守り社会で共に生きる

権利と義務って何だろっ

法やきまは、人々の権利を守りみんなが社会を支え合うために、義務として「しなければならぬ」ことや、「してはならない」ことを定めている。

- 一人一人が義務を果たさなかったり、自分の権利と他人の権利が衝突したときにきまりがなかったら、どのようなことが起こるだろうか。身近な法やきまを例に考えてみよう。



より良い社会を目指して

私たちの先人は、皆が快適に暮らせるための方法を話し合い、合意し、法やきまとして定めてきた。そして、それを守ると同時に、時代の変化に応じて、より良いものに変えてきた。

法やきまは、私たち自身のものであるという自覚をもち、しっかりと守った上で、より良いものに見直していくことも、私たちの大切な役割である。

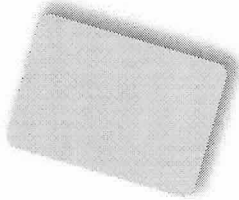
- 私たちの身の回りのきまりについて、生活の変化に対応するために、見直すべきものがあるかどうかを話し合ってみよう。

社会の秩序と規律



一つの楕円のボールをめぐって、激しくぶつかり合うラグビー。みる者はグラウンドで展開される迫力と緊迫のゲームに興奮し、感動する。激しくボールを奪い合った選手たちが、たった一吹きホイッスルで攻防を解き、さっと二手に分かれる。ルールを守る姿と互いを尊敬し合う精神がここにある。

ルールがなければラグビーは単なるボールの奪い合いとなり、競技として成り立たないばかりか、観戦している私たちに感動を与えることもないだろう。ラグビーでも、バレーボールでも、サッカーでも、野球でも、これは、スポーツ競技全てに共通する。競技の中で、ルールは誰もが守るものと定められ、もしこれに反する行為があれば、罰せられる。



法やきまの意義

法やきまを破ったら、刑罰を受けるだけでなく、相手に対する償いをする責任を負う。また、そのことで自分や周囲の人のこれまでの生活が変わられることもある。

- 法やきまを守ることの意義について、考えたり話し合ったりしたことを書いてみよう。

saying

この人のひと言

義務心をもっていない自由は本当の自由ではない。

夏目漱石

■なつめ そうせき (1867~1916)
小説家。「坊っちゃん」「それから」など。

法律の規定に触れさせしななければ
何をやっても可いという思想ほど、
社会に迷惑をかけるものはない。

吉野作造

■よしの さくぞう (1878~1933)
民本主義を唱えた政治学者。

約束は必ず守りたい。
人間が約束を守らなくなると社会生活は出来なくなるからだ。

菊池寛

■きくち かん (1888~1948)
小説家。「父帰る」「隠書」の彼方に」など。

●あなたの見付けた言葉、考えたこと。

message

メッセージ

サッカーの審判員は時に「カードを乱発し荒れた試合となった」と、あたかも主審がゲームを荒らしたような言われ方をされることがある。

しかし、サッカー国際主審である西村雄一さんは言う。「カードをもらうようなことをしてしまっただんな、と選手が感じられるように接することができれば、選手はフットボールの心を思い出しプレーに集中してくれるはずです。ワールドカップでも、リーグでもシニアの試合でも、カードに相当する行為に懲いはないので、同じように対応する。そうすることで、その選手が、未来の大事な試合で同じような行為でカードをもらわなくなることにつながる。ですから、カードに相当する行為があったときには選手の年齢やカテゴリーに関係なく、ちゃんとカードを提示することが選手のためにも大切です。」

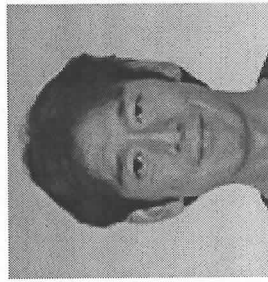
西村さんは二〇一〇年FIFAワールドカップ南アフリカ大会でブラジル対オランダという強豪国同士の戦いで主審を務め、さらに決勝戦では万が一のときに主審の代役を務める第四審判に抜擢された。

スポーツは、しばしば社会の縮図として例えられることがある。守るべきルールがありそれに反した行為は罰せられる。サッカーの主審は違反行為かどうかを判断するが、罰則を与えるかどうかは判断していない。「サッカーのルール」が違反に基づいて罰則を設定していて、主審はそのルールを施行しているのである。

「選手が守るべきルールは同じなので、プロであろうと、少年少女のサッカーであろうと区別なく同じ対応をする。」

同時に、西村さんは言う。

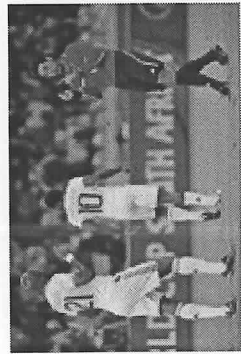
「その選手の間個性が悪いわけではありません。ただ、カードに相当する行為をしてしまっただけ。罰則を与えられるのはその行為であってその「人」ではありません。」



ワールドカップでも、
リーグでもジュニアの試合でも、
カードに相当する行為に
懲いはない。

西村雄一

●東京都出身。サッカーのプロフェッショナルレフリー(PR)。国際主審。小学校からサッカーを始める。指導していた子供チームが審判の誤った判定により負けてしまい、悔しい思いをしている子供たちを尻に「選手の夢をかなえる審判になろう」と審判員の道を歩み始める。●会社員をしながらアマチュアの試合で審判活動を続け、1999年に1級審判員として登録。2004年にスペシャルレフリー(SR、現PR)。2010年のワールドカップでは4試合の主審を務めた。



ワールドカップで主審を務める西村さん

西村雄一 (にしむらういち) 1972~

「駄目だと言ったら駄目だ。」

「どうしてですか。かわいそうじゃないですか。僕、入れてあげますよ。」

「お前が言わないのなら俺が言う。そこをどくんだ。」

立ちただかる山田を押しつけて、佐々木は窓口顔を出した。

「申し訳ございません。お客様。あいにくだった今、入場券の販売を終了いたしましたので、規則上 5

お入れするわけにはまいません。またの御来園をお待ちいたしております。」

高校生くらいだろうか、流行のファッションに身を包んだ二人組の若い女の子たちは、佐々木の言葉に不服な顔をしながらもきびすを返して去って行った。

この市営の動物園の入園終了時刻は、午後四時、今わずかに数分を回ったところだった。

「まったく、佐々木さんは頭が固いんだから、二、三分過ぎたからってどうしたって言うんですよ。 10

今日はまだ随分客が入っているんですよ。」

「お前がかわいそうだと思う気持ちには分かる。しかしまあ待て、俺の話聞いてくれないか。」

そう言う佐々木は、何かを思い出すかのように、ゆつくりと話し始めた。

何年前か前、今お前がやっている入園係の仕事をしていた元さんっていう人がいたんだ。元さんは、 15
定年までの数十年をこの動物園で働いていたんだ。その働きぶりは誰もが感心するものだった。ところが定年間に奥さんを亡くしてしまって、子供がいなかったものだから、話相手も身寄りもなかった。

まひろを返す
顔口を返す。引き返す。

その落胆ぶりは、見ている気の毒なくらいだったよ。「このまま職場を去ったら、何を楽しみに生きていこうかねえ。」元さんのいつもの口癖だった。しかし、それまでの勤勉さと真面目さをかわれて、退職後も引き続き臨時で働かないかという話もちり上がったんだ。元さんの生きがいが、またきたっていうわけだ。

確か学校が春休みに入った頃だな、きつと。毎日終了間際に、決まって女の 5
子が弟の手を引いてやって来たんだ。小学校三年生くらいの子なんだよ。弟の方は、三、四歳といったところかな。いつも入場門の柵の所に身を乗り出して園内をのぞいていたんだ。時々弟を抱っこしてのぞかせてやつたりしてね。そんな様子がほほ笑ましくて俺と元さんは顔を見合わせて眺めていたよ。

そんなある日のこと、入園終了時間が過ぎて入り口を閉めようとしていると、 10
いつもの姉弟が現れた。何だかいつもと様子が違う。

「おじちゃん、お願いします。」

「もう終わりだよ。それにここは、小さい子はおうちの人が一緒じゃないと入れないんだ。」

「でも……。これでやっと入れると思ったのに……。キリンさんやゾウさんに 15
会えると思ったのに……。今日は弟の誕生日だから……。だから見せてやりたかったのに……。」

今にも泣き出さばかりの女の子の手には、しっかりと入園料が握り締められていた。何か事情があつて、親と一緒に来られないということは察しが付いた。

「そうか、そんなにキリンやゾウに会いたかったのか。よし、じゃ、おじさんが二人を特別に中に入 20
れてあげよう。その代わり、なるべく早く見て戻るんだよ。もし、出口が分からなくなったら係の



人を探して、教えてもらいなさい。おじさんはそこで待っているからね。」

入園時間も過ぎていた。しかも小学生以下の子供は、保護者同伴でなければならないという園の規則を元さんが知らないはずがない。けれども、何日も二人の様子を見ていた元さんだった。元さんのそのときの判断に俺も異存はなかった。

二人を中に入れた元さんは、雑務を済ませてすぐに出口の方に回った。

「御来園のお客さまに閉園時刻のお知らせをいたします。五時をもちまして当園出口を閉門いたします。本日は中央動物園に御来園誠にありがとうございました。またのお越しをお待ち申し上げます。」

閉門十五分前の園内アナウンスだった。別れの曲が流れ、園内の人々は足早に出口へと向かう。出口事務所の前で待っていた元さんは、さつきから何度も自分の腕時計と、歩いてくる人々とに交互に視線を向けていた。

閉門時刻の五時、とうとう人の流れが止まり、もう誰も出てくる気配はない。今にも門は閉鎖されようとしている。それからが大変だった。出口の担当職員に二人の姉弟を入場させたいきさつを告げ、各部署の担当係員に内線電話での連絡が行き渡った。園内職員を挙げて一斉に二人の子供の捜索が始まったのだ。

十分、二十分、刻々と時間は経過する。事務所の中、祈るような気持ちで元さんは連絡を待った。一時間もたつたらどうか、うつすらと辺りが暮れかけた頃、机の上の電話のベルが鳴った。

「見付かったか。」

園内の雑木林の中の小さな池で、遊んでいた二人を発見したとの報告だった。

数日後、事務所へ元さん宛てに一通の手紙が届いた。

その手紙を元さんは、何度も何度も繰り返し読んでいた。そして、俺にも読んで聞かせてくれたんだ。

園長
反響

5

10

15

20

前略

突然のお手紙で驚かれることと思います。お許しください。私は、先日そちらの動物園でお世話になりました二人の子供の母親でございます。その節は、皆様大変な御迷惑をかけてしまいましたことを心よりお詫言申し上げます。ことの成り行きの一部始終を知り、私の親としての不甲斐なさを反省させられるばかりでした。

5

不甲斐ない
悔やみました。

実は、主人が今年に入ってから病気で倒れてから、私が働きに出るようになったのです。その間、あの子たちは、いつも私の帰りを夜遅くまで待っていることが多くなりました。弟の面倒を見ながら待っている幼い娘の姿を想像すると、どんなに大変だったか、寂しかったか。今更ながらに胸が痛みます。そんな折りに、子供から聞いたのが動物園の話でした。今度連れて行ってあげると言ってはみるものの、仕事の関係上、そんなめどすら立たない日々でした。

10

よほど中に入りたかったのでしょう。弟の誕生日だったあの日、娘は自分で時めたお小遣いで、どうしても中に入って見せてやりたかったのだと思います。

そんな子供の心を察して、中に入れてくださった温かいお気持ちに心から感謝いたします。自分たちの不始末は、子供ながらも分かっていたようでした。けれども、あの

15

不始末
他人に迷惑をかけるもの
な行いを悔やみ、また
その行いを改めます。

晩の二人のはしぎきょうは、長い間この家で見ることのできなかつた風景だったのです。あの子たちの夢を大切に思ってください、私たちが親子にひとときの幸福を与えてくださったあなた様のごことは、一生覚えることはないでしょう。

本当にありがとうございました。

かしこ

20

● 感じたこと、考えたこと。

[Empty rectangular box for writing]

ところが、喜びもつかの間、元さんは上司から呼び出された。しばらくして、戻ってきた元さんの手には、また一通の手紙が握り締められていた。それは、「懲戒処分」の通告だった。

今度の事件が上の方で問題になっていたのだ。元さんは停職処分となった。

それにしても……。俺はどうしても納得いかなかった。あんなにあの子たちも母親も喜んでくれたじゃないか。それにこの従業員だって、みんな協力的だった。それなのに何でこんなことになるんだ。

元さんは、二通の手紙を机の上に並べて置いた。そしてそれを見比べながらこう言ったんだ。

「佐々木さん、子供たちに何事もなくよかった。私の無責任な判断で、万が一事故にでもなっていたらと思うと……。この年になって初めて考えさせられることばかりです。この二通の手紙のお陰です。また、新たな出発ができそうです。本当にお世話になりました。」

元さんの姿に失望の色はなかった。それどころか、晴れ晴れとした顔で身の回りを片付け始めたのだ。

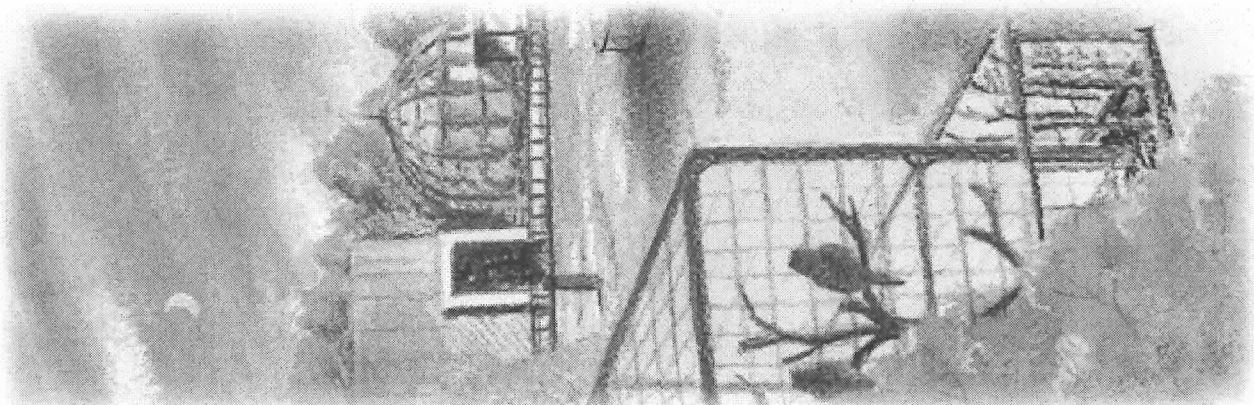
その日をもって元さんは自ら職を辞し、この職場を去って行ったんだ。

今日のようなことがあると、元さんのあの日の言葉がよみがえってくるんだよ。

佐々木は、密かに園内を眺めながら最後の言葉をつぶやくように言った。

「御来園のお客さまに閉園時刻のお知らせをいたします。……」

ちょうどそのとき、退園を促す園内アナウンスが流れ始めた。



懲戒処分
罰則の意味を指し、職務上の処分。
上の方
職員の幹部、上司。

5

10

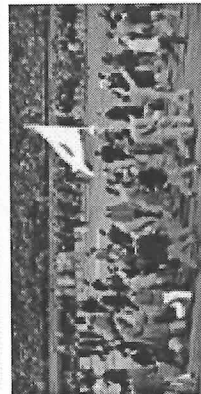
15

国際スポーツの場でも

オリンピック憲章（抜粋）

オリンピックの根本原則

1. オリンピズムは人生哲学であり、肉体と意志と知性の資質を高めて融合させた、均衡のとれた総体としての人間を指すものである。スポーツを文化と教育と融合させることで、オリンピックが求めるものは、努力のうちに見出される喜び、よい手本となる教育的価値、社会的責任、普遍的・基本的・倫理的諸原則の尊重に基づいた生き方の創造である。
4. スポーツを行うことは人権の一つである。すべての個人はいかなる種類の差別もなく、オリンピック精神によりスポーツを行う機会を与えられなければならない。それには、友情、連帯そしてフェアプレーの精神に基づき相互理解が求められる。
6. 人種、宗教、政治、性別、性列、その他の理由に基づき国や個人に対する差別はいかなる形であれオリンピック・ムーブメントに属する事とは相容れない。



現代の企業でも

近年、会社として守るべき規範を定める企業が
増えている。

（例）〇〇会社企業行動憲章

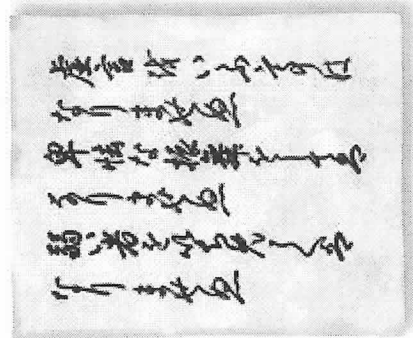
- 一、より良い商品を作ります
- 一、環境保全に努めます
- 一、社会貢献活動を進めます

など

古くから

世界の歴史を遡ると、古代ヨーロッパでつくられ、発展したローマ法は、近代のヨーロッパの法に大きな影響を与え、今日の法の基礎となっている。
我が国の各地にも古くから伝わる社会規範があり、人々に尊重されてきた。

「**仕の掟**」（抜粋）
虚言をいう事は
なりませぬ
卑怯な振舞をしては
なりませぬ
弱い者をいじめては
なりませぬ



▲江戸時代の会葬葬で、藩士としての心構えを定めたもの。子供たちは「仕の掟」を学び、藩士としてふさわしい人間になるため、学問や武術に励んだ。

一人一人が守るべきものがある

法やきまりは、社会生活に秩序を与え、摩擦を少なくして
個人の自由を保障するために作られたものである。

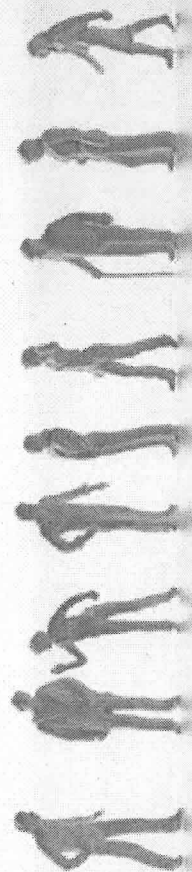
私たちが、社会の一員として、法やきまりの意義やそれらを守ることを意味を考へ、
より良いものに発展させていこう。

公德心、社会連帯の大切さ

もし、私たちの社会が、他人の迷惑を考えず、自分勝手な行動をとる人ばかりになったら、どうなるだろうか。公共の場における他者への配慮や思いやりを大切に、一人一人が助け合い、つながり合いながら、安心して暮らせる社会の実現を目指すにはどうすればよいだろうか。

● 公德心や社会連帯の大切さについて、学校生活や毎日の生活の中で感じたことや体験したことを振り返りながら、考えたことをまとめてみよう。

1年	
2年	
3年	



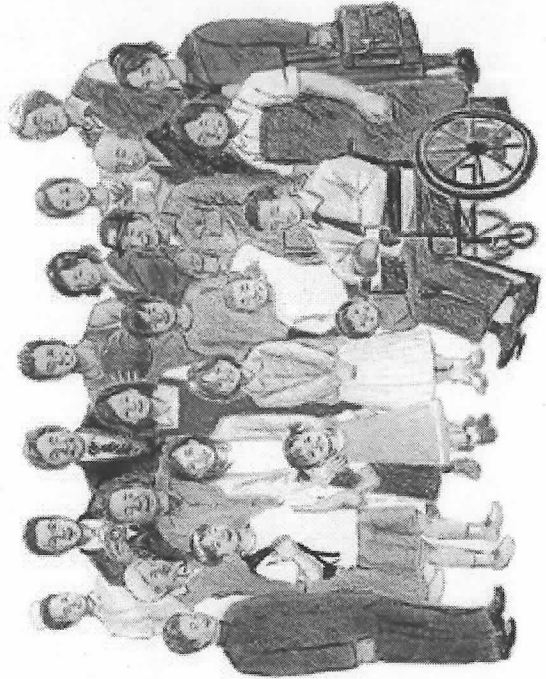
(2) つながりをもち住みよい社会に

近年、社会における人間関係が希薄化してきたと言われる。

確かに、公共の場において、自分のことだけを考え、周りの人たちに迷惑をかけている人や、困っている人がいても気付かない振りをする人を見掛けることがある。

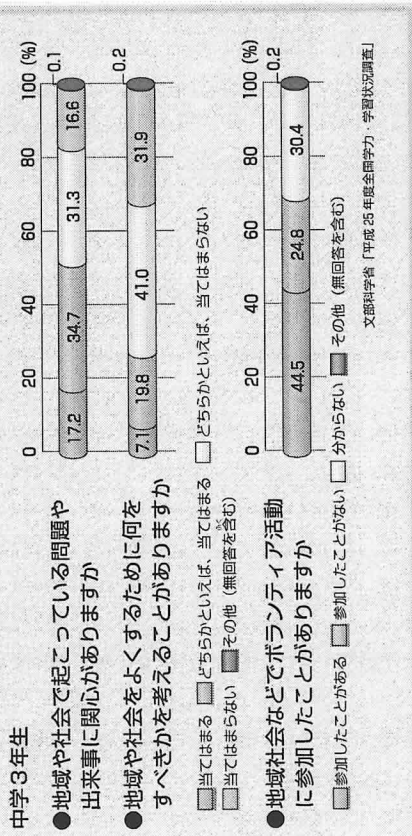
私たちの社会では、法やきまりで定められていないことでも、その場に感じて、周りの人に配慮することや、互いに助け合うことが必要だ。

社会の一員として、一人一人が手を携え、安心して生活できる環境をつくっていくために、私たちができることを考えていきたい。



社会に対する興味関心

自分の身の回りや社会で起っている様々な問題は、いつか、別の誰かが解決してくれると、他人事のように考えてはいないだろうか。自分たちが生きていく社会を良くするために、自分たちも関わっていかうとする態度を育ててみよう。



私たちの社会連帯の実践

- より良い社会づくりに向けた、自分自身の具体的な関わりを考えてみよう。

他者への配慮、思いやり



公共の場では、周囲の人への配慮を呼び掛けるポスターなどが、よく掲示されている。その場の状況に応じた適切な行動をとる上で大切なことは何だろうか。

- 町で見掛けた、他者への配慮や思いやりがあると思った行為について、自分の考えを書いてみよう。

column

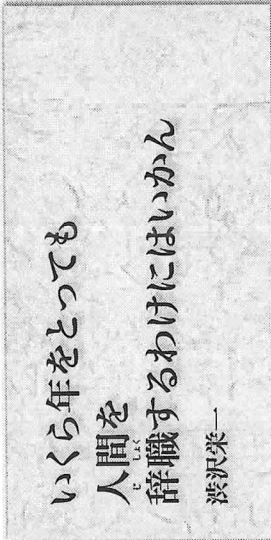
人物探訪

「富をつくるという一面には、常に社会的恩恵あるを思い、徳義上の義務として社会に尽くすことを忘れてはならぬ」

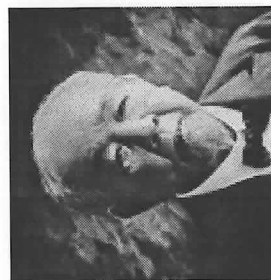
これは幕末から明治、大正、昭和にわたって日本の近代経済社会の基礎づくりに貢献した渋沢栄一の著書『論語と算盤』中の言葉です。渋沢は、一般には実業家として日本で初めて株式会社の基礎となる組織を立ち上げ、銀行や製紙会社、船舶会社など多くの企業の創設と育成に関わり、近代日本の資本主義形成を先導してきたことで知られています。

渋沢は一方で、社会公共事業にも力を注ぎました。十九世紀の末、明治維新という華やかな日本の近代黎明の影で、多くの人々が貧困と飢えに苦しむという社会情勢を憂い、明治十二（一八八〇）年に東京府養育院の院長となり、同院の活動に尽力し、身寄りのない子供やお年寄り、路上生活者などを受け入れ救済しました。貧しい人に税金を使うと怠け者をつくるという反対意見を「政治は仁に基づいて行われなければならない。」と敢然と突っぱねたそうです。亡くなる前年の年の瀬に、社会事業に取り組む人々が渋沢の家に陳情に訪れました。生活に困っている人々を救済する救護法の成立に力を貸してほしいというものでした。渋沢はそのとき九十歳で体調を崩し寝込んでいたそうです。しかし陳情の人々の話を聞くと、すぐさま政府の要人に面会を申し込み、出掛けようとしています。家人や往診に来ていた主治医は慌て、外出を必死に止めました。しかし渋沢は「いくら年をとっても、人間を辞職するわけにはいかん。」と言ってそれを聞き入れなかったという話が、渋沢の四男の秀雄の著書にあります。

この言葉から、人間である以上は、何らかのかたちで社会に役立つ存在でありたいという、渋沢の強くそして深い思いが伝わってきます。



いくら年をとっても
人間を
辞職するわけにはいかん
渋沢栄一



●現在の埼玉県深谷市の出身。実業家。幕末期に幕臣としてヨーロッパを訪問し、進んだ産業や、商人の社会的地位の高さに刺激される。●明治維新後、大蔵省(現財務省)に勤めた後は、銀行、製紙会社、ガス会社などの企業設立に関わった。●商業教育に力を入れたほか、利益を社会に還元することを読書、社会貢献活動にも熱心に取り組んだ。



インドの賤民タゴールを自宅に招いた渋沢(左)

渋沢栄一（しぶさわえいいち）1840～1931

message

「一中生に、声をかけて下さい！」

東日本大震災発生数日後の平成23(2011)年3月18日、岩手県大船渡市立第一中学校の生徒が、被害を受けた自分たちの地域の役に立とうと「一中生に、声をかけて下さい！ 何でもやります」という大見出しの新聞を発行しました。

新聞は「希望」と名付けられて発行を続け、支援の輪を広げていきました。



▲大船渡市立第一中学校が発行した新聞「希望」第一号

鳩が飛び立つ日 — 石井筆子 —

明治の初め、華やかな鹿鳴館で、訪れたドイツ人医師に『私がこれまで出会った最も魅力的な女性』と称賛された一人の女性がいました。限られた家庭の子女しか教育を受けられなかった時代。フランスに留学し、華族女学校の教師として日本の女子教育に奔走していた筆子（石井筆子）です。明治三十五（一九〇二）年、筆子らの努力で女子教育が充実しつつあったある日、筆子はもう一つの道へと進もうとしていました。

團體
國際的社交場として明治政府によって建てられた旅館。
奔走する
物事がうまく進むとあって、こちら忙しく働いて努力すること。

5

女学校の校長室の窓から、外に広がる緑がまぶしく輝いている。明るい光が差し込む校長室の机を筆子は惹きよむように見つめた。日本の未来を築く女子を育てる。その筆子の夢を支えてきた学校を、今日、筆子は手放そうとしていた。

「強い人は弱い人を助けなければなりません。」

10

筆子の耳に、ふと、遠い日に聞いた言葉がよみがえった。

あれは、筆子が女学校の教員になったばかりの頃、ある英語講演の同時通訳をしたときだ。講師はアメリカ先住民のための学校を設立した女性。彼女の父がいつも彼女に教え聞かせていた言葉だという。困難の中で意志を貫き通した女性の姿は、自信にあふれていた。筆子はいつしか自分自身に問い掛けていた。

15

「私にできることは何だろうか。」

当時、筆子は、生まれたばかりの次女の病気の看病に追われながら仕事を続けていた。三歳の長女

には知的障害があることも分かった。明治半ばの日本、知的障害のある人には、学ぶ場所も働く場所もない時代だった。筆子の華やかな活躍を知る世間の人々は、「かわいそうに」と筆子に同情の目を向けた。私は負けない、と筆子は思った。日本の将来を担う日本人女性たちを育てることが自分の仕事。筆子はきっぱりと前を見つめた。

生まれつき病弱だった次女恵子は、わずか一歳で亡くなった。その悲しみが癒されない中で生まれ
た三女の康子にも障害が見付かる。更に追い打ちをかけるように、筆子の仕事を理解し、支えてきた
夫も、病でこの世を去った。筆子と子供たちを残して。

5

筆子たちの努力で日本の女子教育は実を結びつつあった。だが、筆子の心には晴れない思いがあった。自分の娘たちはこのまま社会の片隅でひっそりと生きていくのか。

「私にお嬢さんを預けませんか。お嬢さんのような子供たちのための学校を創って、教育を受けさせたいのです。」

10

そう言ったのは、筆子の学校に講師として招かれた石井亮一だった。（教育？）筆子は亮一の言葉に驚いた。母である筆子ですら、娘たちは社会の重荷なのだと思っていたのだ。

「この子たちに教育を。」

不思議そうな顔の筆子に、亮一は力強く理想を語った。アメリカに留学して最先端の障害児教育を
学んだ亮一は、ふさわしい環境があれば知的障害児もその子の歩みで学び、育ち、社会で働くことも
できる、と確信していたのだ。その夢に、筆子の心は躍った。

15

（この夢を實現させたい。自分もその役に立ちたい。）

亮一の歩む道を共に進もう。そう決意して、筆子は、これまで育ててきた女学校を仲間の一人に託したのだった。女学校の校長室の扉を閉め、筆子は亮一のもとへ向かった。

20

亮一は、澗乃川学園を創設し、親をなくした子供たちや障害のある子供たちへの教育を充実させよ

つながりをもち住みよい社会に

うとしていた。筆子は一教師として子供たちに向き合い、自らも障害児教育について学んでいった。その情熱は、二人の心を強く結び付けた。筆子は亮一と結婚し、学園の充実に奔走する。ゆつくりと、しかし確かに学んでいく子供たちのたくさんの笑顔が、日々の苦勞を乗り越える大きな力を与えてくれた。

次女恵子、三女康子を病で亡くした筆子のもとには、長女幸子だけが残されていた。学園の子供たちと共に成長していく幸子の姿は筆子の心の支えであった。その幸子も、入退院を繰り返した後、筆子に看取られて目を閉じた。筆子は初めて声を上げて泣いた。幸せになってほしいと願って名付けた幸子、豊かな恵みがありますようにと名付けた恵子、そして、健康に育ってほしいと思いを込めた康子。大切な娘たちの誰一人として幸せにしてやれなかった。突き刺すような痛みが胸に迫った。

筆子は幸子が学園で描いた絵や刺しゅう入りのハンカチを手を取った。その一枚に小さな鳩が刺しゅうされていた。仲間たちと一緒に一針を丁寧に入れる姿が目につく。広い世界へ飛び立つ日を迎えられなかった娘たち。ハンカチを強く握り締め、筆子は再び強くなろうと決意した。学園の子供たちを守り育てるのが自分の使命だ。あの

子供たちがいつも笑顔で暮らせるように支えていこう。苦しいこともつらいことも、子供たちと一緒に乗り越えていこう。

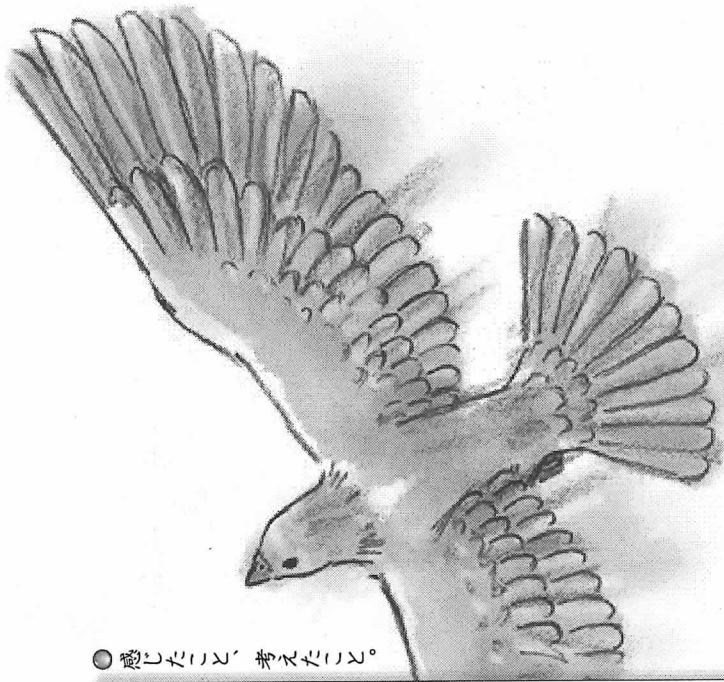
大正九（一九二〇）年の秋、筆子が学園の教育に取り組んで二十年がたったある夜、学園で火災が発生した。大火に襲われる中、筆子たち職員は必死に子供たちを避難させた。さらに、火の中へ入って子供を救おうとして、筆子自身も足に大きなけがをしてしまう。この火災で、園児六人の命が失われた。火事の原因は、一人の子供の火遊びだった。

火で遊ぶことの危険が分からない子供。火が目の前に迫っていても、恐ろしさが分からない子供。また、恐ろしさのあまり、逃げることもできず布団にうずくまって死んでいった子供たち。自分が何もできなかったことに、筆子は立ちすくんだ。

社会から見放された子供たちを守るのが自分の使命。そのために強くならなければ。そう決意してここまで歩んできた。だが、その子供たちを目の前の危険から救ってあげられなかった。助けを求めていただろうに。迫りくる火の中でどんなに苦しんだらうか。



● 感じたこと、考えたこと。



誰一人、守ってあげられなかった。自分の使命などと、何という思い上がりだろう。
亮一も同じ思いだったのだろうか。学園の廃止を決意した亮一に筆子は黙ってうなずいた。この先、一生、亡くなった子供たちを慰めてひっそりと生きていこう。

ところが、筆子の元に、学園の廃止を知った人々からたくさんの声が寄せられた。学園存続のために寄付金を送ってくれる人。筆子が教えた卒業生からも。筆子の故郷からも。

励ましの手紙を読む筆子の眼前に故郷の海が広がった。少女だった頃、切り立つような坂道を一気に駆け下りると、突然視界が開け、青い海が筆子を受け止めるように広がっていた。入り組んだ湾に重なり合う島々の深い緑の中から、一羽の鳥の影が水面を低くかすめ、やがて青くどこまでも広がる大空へと、高く、遠く飛び立っていった。

助けられなかった子供たちの声が聞こえる。(せんせい)と呼ぶ声とする。

「私には子供たちの声が聞こえる。」

と筆子はつぶやいた。自分は強かったのではない。あの声に助けられていたのだ。その声に応えよう。応えなければならない。私が、私たちが、この社会の中にあの子たちの居場所を創るのだ。もう一度、そして、何度でも。

筆子は、亮一と共に学園を再開した。学校で学び、社会で働く。その可能性が全ての人に開かれた社会へ。筆子の歩みは、最後まで止まることがなかった。

4 社会に生きる一員として

(1) 法やきまりを守り社会で共に生きる

P.134~145

4-(1)

法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。

1 この内容項目のページの特徴

法やきまりによって社会の秩序が保たれ、秩序と規律を守ること個人が保障されている。そのことを踏まえ、法やきまりの意義を理解し、権利を正しく主張し、自らに課せられた義務を確実に果たそうとする態度を養い、よりよい社会の実現を目指す気持ちを高めることが重要である。

一三四ページでは権利と義務の側面から法やきまりを捉え、一三五ページでは、身近なきまりを示しながら、これまでに学んだことを振り返る。一三六ページでは、社会をスポーツに例え、ルールを通して法やきまりの意義について理解を深める。一三七ページでは、法やきまりを守ると同時に、よりよいものに見直していこうとする意識を高めるようにしている。

様々な問題が発生した場合、きまりがなかつたらどうなるかを考えさせるとともに、西村雄一氏の「メッセージ」や先人の格言などを通して人物の生き方や考え方に触れ、社会生活において守るべき法やきまりを大事にする態度を養い、日々の実践につなげていくようにしたい。

2 活用のポイント

中学生になると社会の仕組みもある程度理解し、社会の一員としての生活の仕方についての自覚も深まる。し

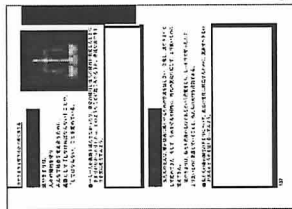
められるかなどについて考える。

■社会科(公民的分野)

人間は本来社会的存在であることに着目し、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考えるようにする。

事例

- ① 一三七ページの上段を読み、一人一人が義務を果たさなかつたり、自分の権利と他人の権利が衝突したとき、身近なきまりがなかつたら、どのようなことが起こるか、身近な法やきまりを例にして話し合う。
- ② 一三七ページの下段を読み、身の回りのきまりについて生活の変化に対応するために見直すべきものがあるかを話し合う。



P.137

◆この人のひと言

「義務心をもっていない自由は 本当の自由ではない。」

夏目漱石の講演録「私の個人主義」に出てくる言葉で、自由と義務の関わりについて語られている。この言葉の背景となった漱石の考えを知り、「本当の自由」とは何かを考えることができる。

しかし、法やきまりについては、その意義を理解しつつも自分を拘束するものとして捉え、反発を感じる場合も多い。一方、他者のルール違反や不当な権利主張などには批判的な態度を示すこともある。

指導に当たっては、こういった批判的な経験も想起させながら、社会の秩序と規律を高めるために必要なことを考えさせ、実生活における実践にまで高めていくようにしたい。

3 活用場面例

■道徳の時間

社会の一員として、社会の秩序や規律を保つことの重要性を認識し、そのために法やきまりが果たす役割についての理解を深める。

事例

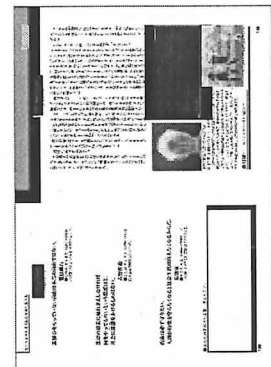
- ① 一三六ページを読んで、法やきまりを守る意義について考え、発表し合う。
- ② 読み物資料「二通の手紙」を読んで話し合う。
- ③ 一三七ページの上段の問いについて意見を発表し合う。
- ④ 一三七ページの下段を読み、よりよい社会や学校、学級を目指すためのきまりとは、どのような意味をもつか、そのよりよい在り方を実現するためには何が求

◆メッセージ(西村雄一)

「ワールドカップでも、
Jリーグでもジュニアの試合でも、
カードに相当する行為に違いはない。」

「カードをもらうようなことをしてしまったんだな、と選手が感じられるように接することができれば、選手はフェアプレーの心を思い出し、プレーに集中してくれるはずですよ。」と語るサッカー国際主審の西村雄一氏。西村氏のこの考え方に触れ、ルールの意義を考える。特に、年齢や経験の区別なく公平に対応する点についても押さえるようにする。

この「メッセージ」を活用して、例えば、なぜ西村氏は年齢等に関係なくカードを提示することが選手のためになるのか、西村氏が考えるルールとはどのようなことかなどについて問い掛け、きまりの意義などについて考えさせることができる。



P.138~139

1 資料の特性

主人公の元さんは、動物園の規則を知っていながら、幼い姉弟の思いに同情し、入園を許してしまう。元さんの行為は、母親からは感謝されることになったが、規則を破って入場させたことから大騒ぎとなり、その結果懲戒処分を受けることとなった。

姉弟の母から届いた感謝の手紙と動物園側から届いた懲戒処分の通告書。元さんが手にした「一通の手紙」は、社会における人間としての生き方について考える機会を与えてくれる。

本資料は、心の葛藤を引き起こす内容であり、社会における法やきまりの意義について深く考えることのできる資料である。

2 指導上の留意点

元さんの行為は、規則に違反した行為であり、万一、姉弟に事故でもあった場合には、軽はずみな行為として非難されることにもなる。しかしながら、この元さんの行為は、姉弟を思いやった行為であり、情動的な共感とともに懲戒処分に対する疑問や反発の気持ちも湧いてくる。

指導に当たっては、元さんの思いについて話し合ったり、元さんの判断を巡る道徳的な葛藤について話し合っ

してしたことだつたにせよ、それで済まされることではない。

・規則を破ると、結局は、多くの人に迷惑をかけることになるということも考える必要があった。

④この学習を通して、感じたことや考えたことは、どのようなことか。

事例②

元さんの判断を通して、社会における法やきまりの意義を考える展開

【主な学習】

①規則に反して姉弟を入園させた元さんの判断に賛成か反対かについて考え、その理由も含めて意見を交流する。また、相手側の意見を聞いて考えたことも述べる。

※弟の誕生日だからという姉の思い、また、重大な事故が起きることもあるということについても考慮して考えさせるようにする。

②自分が元さんの立場だったら、このようなとき、どのように対応すると思うか話し合う。

③法やきまりはなぜあるのか、それを破ることによってどのような問題が起きるのかについて話し合う。



P.140~141

たりして、社会における法やきまりの意義やそれを遵守することの大切さについて考えさせるようにしたい。

3 展開例

【わらい】

法やきまりの意義を理解し、秩序と規律のある社会を実現しようとする態度を育てる。

事例①

元さんの思いを通して、法やきまりを守ることの大切さを考える展開

【主な学習】

①元さんは、なぜ、規則を破ってまで姉弟を入園させたのだろうか。

・毎日、園内をのぞいていた姉弟の思いに同情し、弟の誕生日を祝ってあげたいという姉の気持ちに心を動かされたから。

・入園終了時刻は過ぎたけれど、まだ、閉門時刻は過ぎていない。今ならまだ大丈夫だろうと思つたから。

②母親からの手紙を読んだ元さんは、どう思つたのだろうか。

・そんなにも姉弟が喜んでいたなんて。そのことは、本当によかつた。

・人としての行いは、間違っていないつもりだが。

③「一通の手紙」を見比べながら、元さんが考えていることは、どのようなことだろうか。

・入園係としての義務を考えると、規則の意味を考えて判断すべきだった。

・重大な事故になることも考えれば、姉弟の事情を察

四の視点 重点ページ

一人一人が守るべきものがある

P.146~147

1 このページの特徴

いつの時代にも守られてきたきまりがある。明確に定められた法はもちろん、明文化されていない約束も規範の一つとして言い伝えられてきた。これらの規範を守ることは、自分が社会の一員としての自覚をもって生きることにつながる。

このページを通して、どの時代にも、どのような場面においても、社会や集団における共通の規範があることに気付くことができる。また、法やきまりを守ることが、社会の秩序と規律の維持につながるということについても、考えることができる。

2 活用事例

■道徳の時間

自分たちの守るべき身近なきまりなどについて話し合い、きまりを守ることの意義や自他の権利と義務について考える。



P.146~147

4 社会に生きる一員として

(2) つながりをもち住みよい社会に

P.148~159

4-(2)

公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。

1 この内容項目のページの特徴

公德心と社会連帯についての理解と実践意欲を高めることを目的とする内容項目である。公德を大切にすることが、一人一人の日常生活の中で具体的に生かされることで、住みよい社会が実現できる。自分たちが生活する社会が誰にとつても住みよい環境であるために、よりよい社会の実現に向けた一人一人の努力の積み重ねが必要である。

一四八・一四九ページでは、学校生活や毎日の生活を振り返って、公德心や社会連帯の大切さについて考えることができる。また、一五〇ページを活用し、日常生活の中で他者への配慮や思いやりのある行為に遭遇したことを振り返り、公德心について考えることもできる。さらに一五一ページのグラフを活用し、社会に対する興味や関心について考え、進んで社会と関わろうとする意欲を高めるようにしたい。

2 活用のポイント

自己中心的な身勝手な言動は、周囲を不愉快にさせ、社会の秩序にも悪影響を及ぼすものである。よりよい社会を実現するためには、相互に配慮し、協力して生活を楽しくすることが大切である。ここでは、日常を振り返り、当たり前前の心遣いが住みよい社会をつくっていくということ

とに気付かせたい。また、渋沢栄一の「人物探訪」や大船渡市立第一中学校の「メッセージ」を通して、社会連帯の意義やよりよい社会の実現のために自分たちにできることはどのようなことかについて考えさせるとともに、よりよい社会の実現に努めようとする意欲を高めるようにしたい。

3 活用場面例

■ 道徳の時間

「メッセージ」と「人物探訪」を活用し、社会連帯の大切さについて考える。

事例

- ① 一五三ページの「メッセージ」を読み、感じたことを話し合う。
- ② 一五二ページの「人物探訪」を読み、渋沢の言葉の意味を考える。
- ③ 一四九ページの書き込み欄に公德心や社会連帯の大切さについて考えたことをまとめて記入する。

■ 社会科（歴史的分野）

歴史上の人物に対する生徒の興味や関心を育て、それぞれの人物が果たした役割や生き方などについて、時代

背景を関連付けて考察するようにする。

一五二ページの「人物探訪」を読み、人々の幸福のために生きる姿から、社会に役立とうとする渋沢の強い思いについて話し合う。

■ 特別活動（生徒会活動・学校行事）

一五〇ページの「他者への配慮、思いやり」を読んで話し合い、相手への気遣いで住みよい社会が築かれることに気付くようにする。また、自分さえよければよいという心無い言動を見掛けたときの不愉快な経験を思い出して、そうした言動は、相手への思いやりのなさに起因していることに気付くことができるようにしたい。その上で、一四九ページの「公德心、社会連帯の大切さ」を活用し、自分たちの学校生活を振り返って、一五〇ページのようなキャッチフレーズやポスターを作成し、校内や地域に掲示するなどして、集団や社会の一員としてよりよい学校、生活づくりに参画しようとする態度を育てる。

また、ボランティア活動などの奉仕的行事を行う際の事前・事後に本内容項目のページを活用することで、活動の意義を考えることもできる。

■ 家庭との連携

公德心や社会連帯の自覚を高めるためには、社会全体に目を向けることが大切である。そのため、本内容項目のページについて家庭で一緒に話し合ったり、町で見掛けた他者への配慮や、思いやりがあると思つた行為について家の人と話し合うなどして、様々な視点から社会全体に目を向けて、公德心について考えるようにしたい。

◆ 人物探訪（渋沢栄一）

「いくら年をとっても

人間を辞職するわけにはいかん」

『論語と算盤』の著者であり日本の資本主義の父と言われる渋沢栄一は、社会公共事業にも力を注いだ人物である。渋沢の「人々の幸福のために生きる」という姿勢を通して、生徒一人一人が社会の成員であるという自覚を深め、進んで社会と関わりをもつて生きようとする意欲を育てたい。

東京都北区西ヶ原には「渋沢史料館」が、埼玉県深谷市には「渋沢栄一記念館」がある。

◆ メッセージ「中学生に、声をかけて下さい！」

危機的状況の中で、何か自分たちにできることはないだろうかという思いから、岩手県大船渡市立第一中学校の生徒たちは立ち上がった。がれきの撤去や炊き出しを手伝う姿は、地域の心を束ね、被災した多くの人々の心を明るく照らし、励ました。新聞の「今こそ出番だ」という言葉からは、生徒たちの意気込みが伝わってくる。できることから始めていけば、それがやがて大きな力となり、社会を支えていく力になることを教えてくれる。よりよい社会の実現に向けて、自分たちはどのように努力すればよいかを考え、進んで社会と関わろうとする姿勢を養うようにしたい。

読み物資料

鳩が飛び立つ日 — 石井筆子 —

P.154~159

4-(2)

1 資料の特性

本資料の主人公の筆子は、強くたくましい志で社会を照らし、よりよい社会の実現に向けて生涯をかけた女性である。

女子教育の充実に力を注いでいた筆子は、知的障害のある幼い二人の子供の教育や将来のことで心が晴れなかつた。石井亮一から知的障害児教育の夢を聞いた筆子は、共感し共に歩む決心をする。学園の火災で子供たちを失ったことに強いショックを受けるが、子供たちのために再び立ち上がり、自らの選んだ道を進み続ける決意をする。

よりよい社会の実現のために、決して諦めることなく人生を生き抜いた筆子の姿から、自分たちにできることを真剣に考え、社会を構成する一員としての自覚を促し、生き方を問う資料である。

2 指導上の留意点

中学生の時期は、社会全体の在り方に理想を描くようになるとともに、現実社会と理想との間にギャップを感じ、現状に対する反発心を抱く場合もある。しかし、そのような心境の背後には、よりよい社会を実現したいという思いも隠されている。

また、この時期には、社会福祉施設でのボランティア

- ・ 社会から見放された子供たちを守り切れなかつた。
- ・ 自分は思い上がっていたのかもしれない。

- ④ 筆子は、どうして学園を続けようと思ったのだろうか。
- ・ 社会や子供たちが、自分を必要としているのだ。
 - ・ 学園の存続を願っている人たちの思いに応えよう。

事例②

筆子や社会奉仕活動などをしている人の思いを通して、よりよい社会の実現について考える展開

【主女学習】

- ① 亮一から知的障害児教育の夢を聞いたとき、筆子はどのようなことを考えたのだろうか。
- ・ 本当にそのようなことができるのだろうか。簡単なことではないだろう。でも、子供たちの可能性を拓くため、自分も一緒にやってみよう。
 - ・ 娘たちのためにも、また、よりよい社会づくりのためにも、その夢を一緒に表現したい。
- ② 「私には子供たちの声が聞こえる。」とつぶやいた筆子は、何を思っていたのだろうか。
- ・ 子供たちが私を支えてくれている。私の使命は、私を支え、助けてくれているあの子たちの思いに応えることだ。
 - ・ あの子たちのためにもよりよい社会をつくりたい。
- ③ ゲストティーチャー（社会奉仕活動などをしている人）から、よりよい社会づくりのための活動とその思いについて話を聞いて、よりよい社会づくりに向けた自分自身の具体的な関わり方を考える。

活動などを体験する場合もある。

このような体験を生かして、自分も社会を構成する一員として、他者と共に手を携え、誰もが安心して暮らせるよりよい社会の実現に向けて努力しようとする態度を育てたい。

3 展開例

【わらい】

社会全体に目を向け、よりよい社会の実現に努めようとする意欲を育てる。

事例①

筆子の思いを通して、よりよい社会の実現について考える展開

【主女学習】

- ① 筆子はどのような思いから女学校を手放し、亮一と共に歩む決心をしたのだろうか。
- ・ 障害のある人や弱い立場の人を救うために自分も役に立ちたい。
 - ・ 亮一と共に協力して、弱い立場の人が安心して暮らせる世の中をつくりたい。
- ② 幸子までも失ってしまった筆子は、幸子が刺しゅうしたハンカチを手に取り、どのようなことを考えたのだろうか。
- ・ 亡くした子供の分まで学園の子を守り育てよう。
 - ・ 学園の子供たちを守り育てるのが、自分の使命だ。
- ③ 火事の後、学園を廃止にする決意をした亮一に黙つてうなずいた筆子は、どのような気持ちだったのだろうか。

■ 四の視点 重点ページ

社会に目を向け、社会と関わり、社会を良くする。

P.178~179

1 このページの特徴

四の視点に関わる重点化「社会参画への意欲や態度を身に付ける」に関するページである。誰もが安心して生活できる、住みよい社会の実現のために、自分にはどのようなことができるかを考えることで、生徒一人一人が社会の一員としての自覚を深め、進んで社会と関わろうとする態度を育てたい。

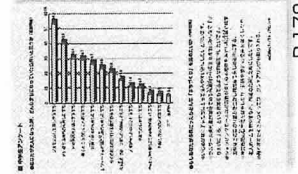
「もし、あなたが市長だったら」という設定では、広い視点から自由にまちづくりへの想像を広げることができる。

2 活用事例

■ 道徳の時間

道徳の時間の導入で活用し、社会全体に目を向けるきっかけとする。

一五一ページの「社会に対する興味関心」のグラフと関連させて、社会参画について考えることもできる。



P.179

4 社会に生きる一員として

(3) 正義を重んじ公正・公平な社会を

P.160~165

4-(3)

正義を重んじ、だれに対しても公正・公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。

1 この内容項目のページの特徴

社会的な問題でもあるいじめにも深く関わる内容項目である。一六〇ページの文章では、いじめに言及し、それは正義に反する卑怯な行為だと断している。一六一ページの世界人権宣言では、差別や偏見のない社会の実現のための課題について考えることができる。また一六二・一六三ページでは、グラフを基にいじめをなくすために何ができるのかを話し合うようになっている。

これらのページを活用して話し合う中で、深く自分にも問い掛け、公正・公平で差別や偏見のない社会の実現に向けた意欲を引き出すようにしたい。

2 活用のポイント

指導に当たっては、「見て見ぬふりをする」とか、「避けて通る」という消極的な立場ではなく、差別を憎み、不正な言動を否定するなどの主体性ある態度が養われるよう指導することが大切である。そのため、一六五ページの「いじめ撲滅宣言」を活用するなどして、いじめの防止や解決に向けて主体的に取り組む中学生の姿から、正義が通る公正・公平な社会の実現に積極的に努めようとする態度を育てていきたい。

3 活用場面例

■ 道徳の時間

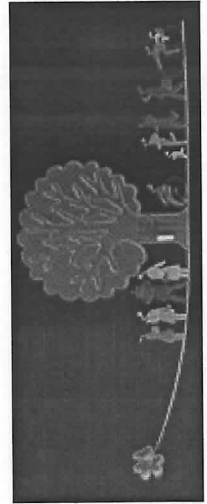
読み物資料や「人物探訪」を活用して、正義の意味を考え、公正・公平な社会の実現について話し合い、差別や偏見をなくそうと努力する態度を養うようにする。

■ 事例

- ① 一六一ページの世界人権宣言を読み、差別や偏見のない社会の実現のための課題について考える。
- ② 読み物資料を読んで話し合う。
- ③ 「人物探訪」を読み、差別や偏見について話し合い、それに立ち向かう正義とはどのようなことかを考える。

■ 特別活動（学級活動）

悪いと思うことをやめさせたり、いじめをなくしたりするためにはどうすればよいのかを学級で話し合い、解決策を見いだすようにする。



■ 事例

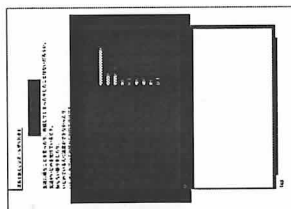
- ① 一六二ページの問いについて、意見を出し合う。
- ② 一六三ページの問いについて、各自それぞれの考えを記入し、発表する。
- ③ 一六五ページの「いじめ撲滅宣言」を参考に、学級の宣言をグループで起草し、発表し合う。
- ④ 各グループの宣言について話し合い、学級の宣言として一つにまとめ、学級みんなで守っていくようにする。

■ 特別活動（生徒会活動）

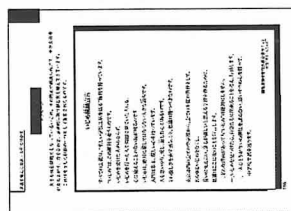
生徒全員が差別や偏見のない学校生活への願いや思いを共有し、正義の実現に向けて積極的な意識をもてるよう、一六五ページの「いじめ撲滅宣言」などを活用する。

■ 事例

- ① 生徒会役員会が主体となり、「いじめ撲滅宣言」を全校生徒に紹介する。
- ② 生徒会役員会の話を受けて、一六三ページを活用して、学級でいじめ撲滅について考える。
- ③ 学級ごとに「いじめ撲滅宣言」を作成し、学級目標とともに掲示し、実践していくようにする。



P.163



P.165

◆ 人物探訪（ガンディー）

「全ての人の目から、あらゆる

涙を拭い去ることが私の願いである。」

ガンディーは、人種差別に対し非暴力、不服従の方針を掲げ貫き通した。このガンディーの生き方を通して、差別や偏見に対して正義を貫いていくことを考えさせるようにする。

人は誰であっても一人の人間として尊重されねばならない。また、差別や偏見によって不当な扱いを受けてはならない。

差別や偏見に対して怒りを感じ、それを正していかうとする気持ちが自分たちにもあることに気づき、自分たちに何ができるかを問い掛けながら、何人にも公正・公平に接し、正義の実現に向けて努力しようとする態度を養うようにする。

◆ メッセージ（いじめ撲滅宣言）

いじめの問題は、現代の社会の解決しなければならない重要な課題である。生徒目らが立ち上がり、その防止や解決に向けた取組を行うことは、重要なことである。

東京都中学校生徒会長サミットの「いじめ撲滅宣言」は、差別や偏見に対する自己の考えを振り返るきっかけとなるだろう。この宣言を様々な視点から活用するようにしたい。

4 社会に生きる一員として

(4) 役割と責任を自覚し集団生活の向上を

P.166~171

4-(4)

自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。

1 この内容項目のページの特徴

人は様々な集団や社会の一員として生活を送っている。本内容項目は、その集団における自己の生き方を考える内容である。

一六六・一六七ページでは、集団において他者と協力して自己の役割を全うしようとする例として、オーケストラの写真が掲載されている。一人一人が奏でる音は、仲間と心をつなげて表現されることで、より美しい音楽となる。家庭、地域、学校、学級、委員会活動、部活動など様々な集団に属する生徒たちに、集団の一員としての自覚を促すような内容になっている。また、一六八ページでは、自分の所属する集団を確認しながら役割や責任について考えることができる。

これらのページを活用して、集団における自己の役割と責任を自覚して、自己の役割を果たし、集団生活の向上に努めようとする態度を養うようにしたい。

2 活用のポイント

人は決して一人で生きているのではなく、所属する集団の中で励まし合ったり支え合ったりしながら生活している。集団においては、各々の役割を自覚し、責任をもってそれを果たすことが重要である。また、集団の目標は各々異なっても互いに排他的にならずに尊重し合い、

集団生活の向上に努めることが大切である。そのため、集団の中での役割や、集団をよりよいものにするためにやってみたいことなどについて、自分のことを振り返って具体的に考えさせるようにしたい。

3 活用場面例

■ 道徳の時間

一七〇ページの「はやぶさプロジェクト」のコラムや一七一ページの「この人のひと言」を活用して、集団の中で自己が輝き、そして集団も発展するということはどのようなことか、そのために何が必要かを考える。

事例

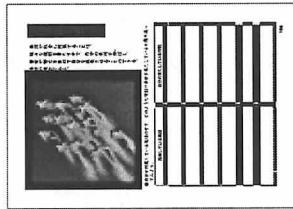
- ① 「この人のひと言」を読み、考えたことについて話し合う。
- ② 読み物資料を読んで話し合う。
- ③ コラム「はやぶさプロジェクト」を読んで、各自の役割と責任、そして集団の目標について話し合う。

■ 特別活動（学級活動）

学級における自己の在り方や学級の仲間相互の関わり方について考え、学級生活の向上のために、自分の役割と責任を果たしていこうとする態度を養っていく際に、一六六から一六九ページを活用することができる。

■ 特別活動（学校行事）

例えば、合唱コンクールや体育祭などの学校生活における行事等、集団の成員が力を合わせ結束しなければならない機会がある。指導の初期段階で一六七ページの書き込み欄を活用して目標を確認し合い、さらに一六八ページへの記入を通して自己の役割や責任について一人一人に自覚させることができる。結果や出来映えのみに意識が集中しないよう留意し、集団の望ましい在り方について考えることができるようにする。



P.168

◆ コラム〈はやぶさプロジェクト〉

壮大なプロジェクトは、メンバーの一人一人が自己の役割を全うし、互いに支え合いながら、心をつなげて努力を続け、数々のトラブルを克服して達成された。「はやぶさプロジェクト」の取組を通して、集団の力を高めるために何が必要なのかを考えることができる。

(道徳の時間の学習展開の例)

- ① はやぶさの写真や映像を提示する。
- ② コラムを読んで話し合う。
- ③ エンジントラブルに見舞われた時の川口淳一郎氏たちの思いについて話し合う。
- ④ 一六七ページを読んで、集団として目標を達成するために大切なことを考え、話し合う。
- ⑤ 一七一ページの格言を読み、集団の役割と責任について考えを深める。

◆ この人のひと言

「自己形成がある程度まで進んだら、比較的大きな集団に加わり、他人のために生き、我が身のことを忘れるほど、これが自分の義務だと感じた活動に身を投じていくのが望ましい。人間は、そうやって初めて自分自身を知ることができる。」

ドイツを代表する文豪、ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテは、フランクフルトに生まれた。自然科学にも興味をもちながら、シラーとともにドイツ文学における古典主義時代を築いた人物である。

彼の言葉から、人は一人では生きられない、集団の中で自己を輝かせることによって自己の存在を感じ取ることができるのだという思いが伝わってくる。

4 社会に生きる一員として

(5) 勤労や奉仕を通して社会に貢献する

P.172~177

4-(5)

勤労の尊厳や意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。

1 この内容項目のページの特徴

中学生にとって、働くことに対する関心や意識は決して高いとは言えない。しかし、この時期に勤労の意義について考える機会をもつことは、将来に向けて有益なことである。

一七二ページでは、働くということの意味を文章と四つの写真から考えられるようになってきている。一七三から一七五ページは、ボランティア活動や職場体験活動等の例示を含め、働くことの実感や意義、社会との関わりについての文章や問い掛けで構成されている。

さらに「メッセージ」と「この人のひと言」を活用することで、勤労と社会貢献との関わりについて、人物の生き方や言葉から考えることができるように構成されている。

2 活用のポイント

中学生の段階では、働くということは、現在の自分にとっては無関係という捉え方をしがちである。しかし家庭や地域、学校において行う様々な活動の中には、仕事と同様に、公共の福祉と社会生活の発展・向上につながるものも多いということに気付かせるようにする。

また、自己の進路と関連して一七五ページの問い掛けなどを通して、働くことは何らかの形で社会に貢献するものであるということに気付くこともできる。この時期に勤労についての正しい理解を促すことは、学ぶことの意欲を高める上でも大切なことである。

める上でも大切なことである。

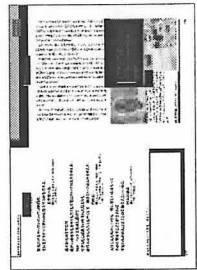
3 活用場面例

■ 道徳の時間

職場体験活動等を通して、勤労の尊厳について考えるとともに、そうした活動がもたらす充実感を知り、働くことによつて生きがいのある人生を実現しようという意欲を高め、公共の福祉と社会の発展に努めようとする態度を養うようにしたい。

事例

- ① ボランティア活動や職場体験活動等を振り返りながら鈴木邦雄氏の「メッセージ」を読む。
- ② 「相手の方が喜んでくれることが、僕の喜び」という鈴木氏の言葉から働くことの意義について考える。
- ③ 「仕事の見返りは相手の方が走れた感動です。」の「見返り」の意味を考え、話し合う。
- ④ 一七六ページの「この人のひと言」の言葉に触れながら、働くことと社会貢献との関わりについて、自分なりの考えをまとめる。



P.176~177

■ 特別活動(学級活動)

学級活動の内容「(3) 学業と進路」の「エ 望ましい勤労観・職業観の形成」の指導に当たって、一七三ページを活用して実際に働いている人にインタビューし、それを基にして働く目的と意義について話し合う。

また、将来自分がどのような職業に就き、どのような職業生活を送るのかについてグループで話し合い、生きがいのある人生を築こうとする意欲を高める。

■ 総合的な学習の時間

一七二から一七五ページに掲載されている写真から様々な職業があることを理解するとともに、社会が様々な職業で支えられ、仕事が社会にどのように関わり、貢献しているのかについて考える。その上で、仕事についてテーマを決めて調べてまとめ、発表する。

◆メッセージ(鈴木邦雄)

「仕事の見返りは相手の方が走れた感動です。」

会社に勤めながら視覚障害者ランナーの伴走者としてボランティア活動を始めた鈴木邦雄氏の生き方に触れる。

「仕事の見返りは相手の方が走れた感動です。」という言葉の中にある仕事の本質的な意味や、人生における仕事の役割などについて考えさせたい。



◆この人のひと言

「人はどんな場合においても 常に楽しい心をもって その仕事をする事ができれば

すなわちその人はまことの幸福な人といひ得る。」

明治期に活躍した国木田独步の短編小説『日の出』による。明治二十一年一月一日のとある海岸。財産を使い果たし海に身を投げようとする青年が、初日の出を見に来た老人の言葉で思いとどまる。老人は「初日の出だ。神々しいじゃないか。」と青年に声を掛け、家に招き、雑煮を振る舞いながら、「日は毎日、出る、人は毎日働け。そうすれば、毎晩安らかに眠られる。」と諭す。青年は生まれ変わったように働き資産家となり、老人が亡くなった後小学校をつくり老人の息子に託す。「この人のひと言」は、里帰りし訪れた卒業生に、校長として働く老人の息子が語った言葉である。これに続けて「人は人以上の者になることはできない。しかし人は人の能力の全部を尽くすべき義務をもっている。この義務を尽くせば英雄である。」とも語っている。

4 社会に生きる一員として

(6) 家族の一員としての自覚を

P.180~183

4-(6)

1 この内容項目のページの特徴

家族の一人一人が温かい信頼関係や愛情によって結ばれていることを自覚することは、より充実した家庭生活を築くことにもつながる。

一八二ページの文章や問い掛けを通して、家庭や家族についての考えを整理し、一八三ページでは、グラフを通して家族との語りについて振り返るようになっていく。また、一八三ページの文章では、家族を「命の長いつながり」と捉え、いずれ自分が楽しく家庭へと思いを馳せることができる。さらに、コラム「誰かのために」では、家族の一員としての自覚、家族の絆について考えることができる。

2 活用のポイント

自我意識が高まる中学生の時期では、家族に対して反抗的な態度をとることがあったり、家庭や家族から少し距離を置こうとする傾向が見られる。このような時期に家庭や家族について深く考える機会を設けることは大切なことである。

指導に当たっては、自分自身の家族のことや家庭生活のことを振り返るページを活用するなどして、自分と家族との関わりについて考え、家庭生活の在り方が人間としての生き方の基礎であることを理解させるようにする。

とができる。また、母親が作ってくれた最後のお弁当を食べた子供の気持ちについて話し合うことができる。

- ④ 家庭や家族について自分自身が感じたこと、考えたことを一八五ページの書き込み欄に記入して発表する。

■ 社会科（公民的分野）

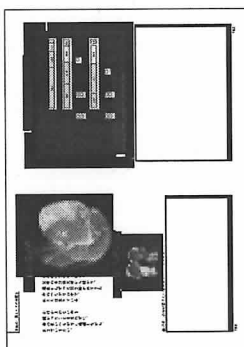
内容「(1) 私たちと現代社会」の「ア 私たちが生きる現代社会と文化」において、社会的存在としての人間、社会集団における家族の機能の指導に当たって、自分と家族との関わりを考え、家庭生活の在り方が人間としての生き方の基礎であることを理解させる際に本項目のページを活用する。

■ 技術・家庭科（家庭分野）

内容A「(1) 自分の成長と家族」及び「(2) 家庭と家族関係」の指導に当たって、自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて考えるとともに、家庭や家族の基本的な機能、家庭生活と地域との関わり、家族関係をよりよくする方法を考える際にこの項目のページを活用する。

事例

- ① 一八二ページのグラフなどを見て、自分と家族とのコミュニケーション（関わり合い）について、振り返る。また、その状況について、友達と意見交流する。



P.182~183

父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。

また、家族の一員としての自覚をもって積極的に協力できるような態度を養っていくことも大切である。

なお、様々な事情により多様な家庭環境があることを踏まえ、生徒一人一人の家庭環境について十分に配慮した指導が必要である。

3 活用場面例

■ 道徳の時間

本項目の書き込み欄に記入した生徒の思いを家庭で話し合ったり、家族に思いを書き込んでもらったことを、道徳の時間の学習に生かしたりするなどして家庭と連携した活用を図るようにしたい。

事例

- ① 一八〇・一八一ページを読んで、家族や家庭について考えたことを一八一ページに記入する。
- ② 読み物資料「一冊のノート」を読んで話し合う。
- ③ 一八四・一八五ページのコラム「誰かのために」を読み、余命三か月と診断された患者とその家族の生き方から家族についての考えを深める。例えば、「子供の卒業式まで生きたい。」という言葉や最後の力を振り絞ってお弁当を作る様子などから、無私の愛情をもって子供を育てようとする母親の姿について話し合うこと
- ② 自分にとっての家庭、また、地域と家庭との関わりについて考え、話し合う。
- ③ 家庭生活をよりよくするための家族の関わりについて話し合う。
- ④ 一八三ページを読んで、将来、自分が築きたい家庭をイメージして、自分の考えをまとめ、友達と意見交流する。

◆ コラム「誰かのために」

鎌田賢氏が最期を看取った患者とその家族との関わりから、自分の成長を願い、無私の愛情をもって育ててくれた父母や祖父母に対して敬愛の念を深めることができる。

余命三か月と知りつつも子供の卒業を見届けたという母親の姿、その思いをしつかりと受け止めている子供の姿を押さえない。生きる力が湧いてくのはなぜなのかを考え、家族の深い絆について捉えられるようにしたい。



P.184~185

1 資料の特性

人間は、過去からずっと受け継がれてきた命のつながりの中で生きている。家族とは、自分を育ててくれた祖父母や父母をはじめとする最も身近な共同体である。

本資料には、主人公である「僕」と同居している物忘れの多くなった祖母との間に生じたトラブルと、その興にある祖母の思いが描かれている。

トラブルから祖母に不満を感じる「僕」だったが、ある日、一冊のノートを見付け、そこに書かれていた祖母の苦悩と、家族のことを思い続ける気持ちをを知る。

その一冊のノートを読んで、いたたまれなくなった「僕」。その「僕」の思いを考へることを通して、家族を大切に思う気持ちを感じ、家族の一員としての自覚を深めることができるとともに、家族のかけがえのなさを再認識させてくれる感動的な資料である。

2 指導上の留意点

中学生の時期は、自我意識が強くなり、自分の判断や意志で生きていこうとする自立への意欲が高まってくる。そのため、父母や祖父母の言動に反抗的になるという面も見られる。また一方で、家族の一員として、役割を担うことで家庭の仕事の大変さや家族の有り難さが分かってくることもある。

・自分が責めたときの、祖母の寂しそうな姿を思い出したから。

③黙って祖母と並んで草取りを始めたのは、どのような気持ちからだろうか。

・祖母が一番苦しんでいることを知り、いたたまれない気持ち。ひどいことを言つて、ごめんなさい。
・こんなにも大切に思ってくれていることへの感謝と、祖母を責めたことへの後悔の気持ち。
・これからは祖母を大切にしたいという気持ち。今度からは自分が祖母を支える番だ。

④家族の一員であるとは、どのようなことだろうか。

事例②

祖母の思いを通して、家族の一員としての在り方を考へる展開

【主な学習】

①「誰だって年を取ればしわもできれば白髪頭にもなってしまうものよ。」と言つた祖母の気持ちは、どのようなものだっただろうか。

・年を取ってしまったことの自覚とともに寂しさを感じている。

・自分はきちんとしているつもりなのに、孫から厳しい口調で問い詰められ、悲しい気持ち。

②「あと十年、いや、せめてあと五年、何とか孫たちの面倒を見なければ。」と書いた一冊のノートには、祖母のどのような思いが込められているのだろうか。

・自分の孫たちに迷惑をかけているのだろうか、何とか孫たちのために自分ができることをしてあげたい。

本資料の活用にあたっては、家族との関わりを振り返らせながら、家族が相互に深い絆で結ばれていることを自覚し、家族に感謝することがより充実した家庭生活を築くことにつながることを生徒一人一人に深く考えさせたい。

なお、家族の姿も様々ではないので、様々な事情を抱えている生徒に対して十分な配慮が必要である。

3 展開例

【ねらい】

かけがえのない家族の存在に気付き、その一員として関わり合いながら、充実した家庭生活を築こうとする態度を育てる。

事例①

「僕」の思いを通して、家族の一員としての在り方を考へる展開

【主な学習】

①薬局の前で祖母に出会ったとき、友達に気付かれないように知らん顔をして通り過ぎたのは、どのような気持ちからだろうか。

・変な格好をしている祖母の姿が恥ずかしい。

・自分の祖母だと周りに気付かれない。

②父の話聞いたとき、何も言えなくなったのはどうしてだろうか。

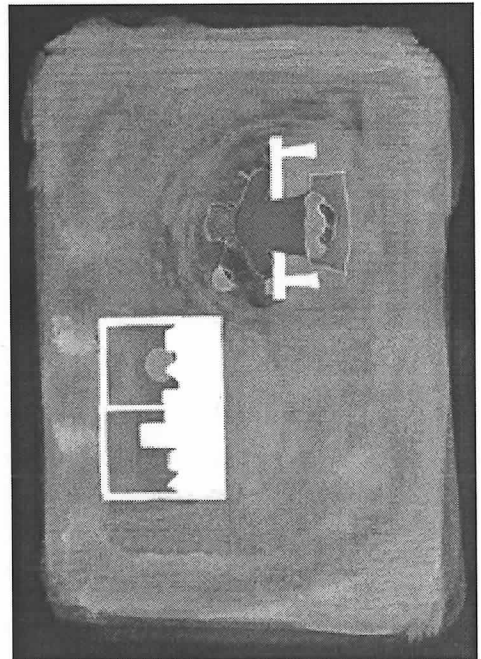
・現在の医学では治せない病気なのだから、これ以上言つても仕方がないと思つたから。

・幼い頃から祖母に身の回りの世話をしてもらうなど、何かと祖母に頼っている自分に気付いたから。

それが自分の生きがいだ。

・二人とも大人になるまで、それが無理なら高校生になるまで孫たちのために頑張りたい。

③この資料を読んで、感じたことや考えたことは、どのようなことか。



危機管理研修（90分コース）

【研修のねらい】

・学校に起こると想定されるあらゆる危機について、事例を使った演習や講義を通して学び、危機管理の能力向上を目指す。

【研修の展開例】

1. 演習（45分） 説明 5分

- ①具体的危機の事例について、自分の考え(対応)を書く。(3分×4)12分
- ②班で対応を協議し、学び合う。(5分×4)20分
- ③各事例について代表の班が発表する。(2分×4)8分

【具体的事例の分類と演習問題例】

- ①いじめによる不登校や自殺
- ②校内・校外(部活動中、修学旅行中)の事故(器具による、熱中症、ケンカ等)
- ③体罰(暴言)、対教師暴力
- ④地域住民のクレーム(登下校時、部活動時の音声、校内放送、エアコン室外機音、交通マナー)
- ⑤災害時の措置…台風、地震、火事 (校外学習時も含む)
- ⑥教職員の不祥事…交通違反、猥褻事件、情報漏洩
- ⑦不審者…校内への侵入、地域での事件
- ⑧その他…保護者への欠席確認義務、部活動引率・立ち会い義務

×高校で、夏季休業中にバスケットボール部が練習していたところ、2年生の男子生徒が熱中症で倒れ、死亡してしまった。いつも通りの練習であり、今までに事故はなかったが、学校や顧問の責任はどのように問われるか。

高校1年生の男子Aの両親から、Aが同級生数名から執拗ないじめや、学校内外での執拗なつきまとい行為を受けたために、転校せざるを得なくなったとして、慰謝料と転居のために必要となった費用の賠償を求められた。いじめを防止できなかったという点で学校に安全配慮義務違反があるとされた場合、転居費用を支払う必要があるか。

生徒指導担当の×教諭は、指導に熱が入ると生徒に対して「学校のルールを守れないなら死んでしまえ」「人間のクズだ」などの発言をしてしまう。何人かの生徒はそうした指導から不登校になってしまい、不登校になった保護者から訴えられた。学校側はどのような責任を問われることになるか。

×市では全ての小中学校の全教室へエアコンを設置した。すると、Y小学校の近隣の住民から室外機から発せられる騒音が受忍の限度を超えているとして、市を相手にして室外機ま撤去と、過去及び将来の騒音被害に対する慰謝料の支払いを求めた。

2. 講義(30分)

- ①危機を想定して、予防すべきこと
 - ・教職員全員の具体的な危機と予防策の共有
- ②危機が起こったときの適切・迅速な対応 ※特に児童・生徒の死亡事故・自殺
 - ・教職員の適切な事後処理方法の共有

- ・警察や関係機関へ相談すべき事例
- ・県・市町村教委への報告・相談、生徒への説明、保護者への説明、地域への説明、マスコミへの説明

3. 振り返り 振り返り用紙記入(5分)、共有(5分)

4. まとめ(5分)

【備考】

- ・準備

事例研究用記入用紙

振り返り用紙

「いじめへの対応といじめ防止」研修（90分コース）

【研修のねらい】

- いじめや不登校等についての理解を深め、指導・支援に生かすための手立てを学び、生徒や保護者とのかかわりに生かす。
- いじめや不登校等についての課題に対して組織の力を生かして解決する手立てを学びます。

【研修の流れ】 4人1組で班編制をしたときの例

1. 今までの職場で実際にあったいじめ事例について、個人情報に配慮して事実経過と対応について班の中で説明し、質疑応答をする。各5分(5人の班は4分) **20分**
2. 各自いじめ防止活動のアイデアを付箋に記入する。(付箋は一人5枚配付)生徒主体のいじめ防止(学年、HR、部活動、生徒会でどう取り組むか) **10分**
3. 付箋を班ごとにKJ法で分類してまとめる。(A3用紙) **10分**
4. 各班ごとにいじめ防止活動アイデアカードに記入して提出する。 **5分**
5. アイデアを読み上げる。(全部の班のものをまとめて印刷し、あとで全員に配付する) **10分**
6. 各自、本時に学んだこと・気付いたことを振り返りシート記入する。 **5分**
7. 講義 全国の先進的ないじめ防止活動や、他国のいじめ対策について **20分**
8. 班内で、一人30秒程度で振り返りシートに書いた内容を発表する。 **5分**
9. まとめ **5分**

【備考】

- 事前準備について
 - ・A3用紙、付箋紙、マジック
- 「7. 講義」については、事項を参考に国内、外を問わず、様々な事例を紹介し、研修目的の周知に生かす

カリキュラム・マネジメント研修（90分コース）

【研修のねらい】

- ・教師一人ひとりが学校のカリキュラムを創り、カリキュラムの評価を行うという意識を持つ。
- ・個々の教員ではなく、集団で協同してカリキュラムを創りあげるという体制づくりに役立つ。
- ・自分たちが「学校づくり」の中心になり、結果的に「特色ある」学校をつくることができる。

【研修の展開例】

1. はじめに(3分)「カリキュラムマネジメントとは何か？」
2. 演習1 授業を通して、生徒につけたいと思っている力を付箋1枚につき1つ書く(5分)
※付箋は粘着部が左側にくるようにして横書き
3. 演習2 台紙1の「授業を通して生徒につけたい力」に演習1で書いた付箋を貼り付け、類似した内容の付箋ごとにまとめて表題をつける(10分)
例：礼儀、遵法精神、思考力、表現力、コミュニケーション力、技術力、忍耐力
できれば「授業を通して生徒につけたい力」と「その力をつけるために実践していること」を並べて、対応がわかるようにまとめる。
4. 演習3 演習1で書いた力をつけるために授業で実践していること、工夫を、付箋1枚につき一つある程度具体的に書く(5分)
例：チャイムスタートチャイムエンド、実習ごとのレポート、毎時間一人一分スピーチ
5. 演習4 台紙2に演習3で書いた付箋を貼り付け、先ほどと同様に類似した内容の付箋ごとにまとめて表題をつける(10分)
例：時間や締め切りを守らせる、レポート、口頭での発表、レジュメ・ワークシートの工夫
※ 班編制は、科目や年齢・性別が偏らないようにし、他教科の先生方との共通理解を図る。
6. 各班のワークシートを全員で見合う(10分)
7. 講義(20分)
8. 演習5 総合的な学習の時間の内容に各教科がどのようにかかわるかを考え、協議する。
生徒につけたい力を全体として実現するために、各教科がどのように連携できるかを考える。
付箋1枚につき一つのアイデアを書く。(10分)
9. 振り返り 振り返り用紙記入(5分) 共有(5分)
10. まとめ(7分)

【備考】

- ・用意するもの（ワークシート、付箋紙、ストップウォッチ）

組織マネジメント研修（60分～120分コース）

【研修のねらい】

○学校運営をはじめ、部活動、学年・学級運営など教育現場で必要となる組織マネジメントについて、より良い運営を目指す。

【研修の展開例】 1班4～6人編制での展開例

1. はじめに 3分～5分
学校における組織マネジメントとは

2. 演習1「学校を分析しよう」 15分～30分
 - (1) 自校のミッション（使命・存在意義）について、教員の立場、生徒の立場、保護者の立場、地域住民の立場から考え演習用紙に記入する。
 - (2) 自校の現状を付箋に数多く記入（ブレインストーミング）
ピンク付箋：学校内の強み、学校外の支援的要因（プラス要素）
ブルー付箋：学校内の弱み、学校外の阻害的要因（マイナス要素）
 - (3) グループでSWOTマトリックス用紙にまとめる。
※(1)、(2)は個人、(3)はグループ

3. 講義 15分～30分
 - 講義内容
 - ・学校組織マネジメントのねらい
 - ① 教職員の職能開発と学校経営への協働参画の重要性の理解
 - ② 協働重視型の学年・学級経営に向けた認識の転換
 - ③ 組織の同僚性の向上（コミュニケーションの活性化）
 - ・本研修のねらい
学校の現状把握し、目指す学校像をつくることで、学校全体で取り組むべき課題と解決の方向性を確認する
 - ・組織マネジメントで使用する手法について
（SWOT分析、学校活性化に向けた実効策検討シート）

4. 演習2「学校を活性化（特色ある学校）しよう」＜グループ＞ 22分～45分
 - (1) 自校のSWOT分析のプラス事項から、自校ならではの特色ある活動や取組を数多く付箋に記入。
 - (2) 事項のSWOT分析のマイナス事項から、問題解決策を数多く付箋に記入。
 - (3) 実効策検討シートに配置することで、まず手を付けるべき取組や方策を決定する。
 - (4) まず手を付けるべき取組や方策について発表し、共有する。

5. まとめ・振り返り 5分～10分
 - (1) 振り返り（学校全体の取組や方策を確認し、自分自身のミッションを考える。

【備考】

・準備 SWOT用紙 事例研究用記入用紙 振り返り用紙 付箋 マジック